

心理学研究科 博士(前期)課程
2022 年度入学生

授業科目名	心理学研究法特論			担当者	三宅 俊治		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学研究を実際に行う際の理念・概念の明確化に至る思考、研究過程における問題の解決がテーマである。先行研究の概観と問題点の発見、その問題に見合ったデータ収集、方法の立案、結果の記述、データ分析・結果の表示・考察等々の方法論一般を理解できる。到達目標は、観察・実験・調査等々の具体的理解によって、修士論文の研究計画が考案できる水準に達することである。						
授業概要	研究を進めていく際の、問題の所在・目的・方法・結果・考察などの一連の論理性や整合性に注意を払ってテキストを読み解く。具体的には、意識や行動を分析する際、実験、調査、観察、検査などの狭義の方法論について、その特徴や問題点を客観的な視点から、受講者相互間で議論する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	授業期間中のレポート課題40点、筆記試験60点、合計100点。なお、レポート課題については、受講者相互がその内容について議論することをもって、フィードバックとする。なお、レポート課題評価の一環として小テストを数回行い、その得点をレポート課題40点の中に組み込む。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に解説を行う。						
履修条件・注意事項	授業参加者は、割り当てられた担当部分をレポートし、説明する。テキストに記されている事項以外の関連領域の所見を積極的に紹介し、主体的に授業にかかわる義務を負う。『Progress & Application 心理学研究法』をテキストとして用い、その中の観察法、調査法、実験法の順に、授業参加者が分担して受け持ち区分について、テキスト内容の紹介する。また、テキストの内容だけでなく、他の関連著書や参考文献などを担当者が独自に調べ、説明する。説明に当たっては、パワーポイントを使用し、プレゼンテーション経験を蓄積し、その向上に努める。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。						
オフィスアワー	日時：毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）						
授業計画						担当者	
1. orientation 2. 科学としての心理学 3. 心理学研究法の分類 4. 観察法の概要 5. 観察法を用いた研究の進め方 6. 観察法による具体的研究例 7. 観察データの信頼性と妥当性 8. 調査法の概要 9. 相関・共変・因果関係 10. 調査項目の作成 11. 心理尺度 12. 心理実験とは 13. 実際の実験例 14. 実験変数について 15. 実験デザイン 16. 定期試験						1. 三宅俊治 2. 三宅俊治 3. 三宅俊治 4. 三宅俊治 5. 三宅俊治 6. 三宅俊治 7. 三宅俊治 8. 三宅俊治 9. 三宅俊治 10. 三宅俊治 11. 三宅俊治 12. 三宅俊治 13. 三宅俊治 14. 三宅俊治 15. 三宅俊治 16. 三宅俊治	
教科書							
教・書籍名 1	Progress & Application 心理学研究法 第2 版				教・出版社名 1	サイエンス社	
教・著者名 1	村井潤一郎（編著）				教・I S B N 1	ISBN978-4-7819-1509-	

			8 C-3311
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	心理学研究法（公認心理師スタンダードテキストシリーズ4）	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	三浦麻子・小島康生・平井 啓（編著）	参・ I S B N 1	ISBN978-4-623-08614-6 C3311
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。 本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができる。						
授業概要	関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(30%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③研究の進捗状況報告(40%)から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	文献収集と内容理解への努力、研究の進捗状況報告については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回 研究倫理に関する理解・研究計画についての理解 第2回 研究計画内容の検討 第3回 文献研究の方法について 第4回 文献に関する検討(1) 先行研究の紹介 第5回 文献に関する検討(2) 先行研究のまとめ 第6回 文献に関する検討(3) ディスカッション 第7回 研究方法論に関する考察(1) 研究倫理 第8回 研究方法論に関する考察(2) データの収集法 第9回 研究方法論に関する考察(3) データの扱い方 第10回 研究方法論に関する考察(4) 分析の進め方 第11回 研究方法論に関する考察(5) 考察の進め方 第12回 発表の方法(1) 研究概要について 第13回 発表の方法(2) プレゼンテーション技法 第14回 課題の整理と展望 第15回 まとめ						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回授業時に資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

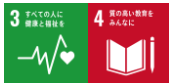
参・書籍名 1	大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方	参・出版社名 1	ナカニシヤ出版
参・著者名 1	吉田健正	参・ I S B N 1	4-88848-868-1
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ：代表的精神障害の診断と症状評価を理解する。 到達目標：大学院の学生が、精神科医療機関を訪れた患者さんの問診時に、適切な精神症状の評価に基づく精神医学的診断が出来るようになることを目標とする。						
授業概要	精神障害の診断に世界的に使用されているDSM-V或はICD-10 or 11に基づいた、適正な診断が出来るようになるために必要な精神医学的知識を学ぶ。多くの精神疾患には、それぞれの病状の重症度を評価するための症状評価尺度が開発されており、代表的な症状評価尺度が適正に使えるよう精神症状論を学ぶ。講義中に用いたスライドを、プリントして配布する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「代表的精神障害の診断と症状評価を理解する。」の到達度について、知識および能力を計るために、授業での発表を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、復習を1時間程度行う。						
オフィスアワー	木曜日2限目、6号館4F6401研究室						
授業計画						担当者	
1. 精神医学の歴史・精神科の診断基準 2. 研究倫理に準拠した責任ある研究活動 3. 精神医学総論（症状評価・治療法） 4. 精神医学に必要な検査（脳構造と脳機能の検査） 5. 精神医学に必要な検査（心理検査） 6. 精神発達 7. 治療者－患者関係 8. 統合失調症（症状評価と診断） 9. 統合失調症（治療法） 10. うつ病 11. 双極性障害 12. パニック障害 13. 強迫性障害 14. 外傷後ストレス障害 15. 認知症						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	標準精神医学				教・出版社名1	医学書院	
教・著者名1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・I S B N 1	ISBN978-4-260-02041-1	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは、修論作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込みができることである。						
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	受講態度（50％）と修論テーマの絞り込み程度による（50％）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各自の発表に基づいて、その都度フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	修士課程のゼミらしく、自分で調べて、それでもわからないところは質問する。 発表の準備に2時間以上、復習・課題の整理に2時間は要する。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション & 研究倫理について						森井	
2. 今後の研究計画について						森井	
3. 心理学研究法の基礎						森井	
4. 文献検索(キーワードの検討)						森井	
5. 中心的関連文献(図書)の検索						森井	
6. 周辺の関連文献(図書)の探索						森井	
7. 実験計画法(剰余変数の扱い)						森井	
8. 実験計画法（要因計画）						森井	
9. 記述統計の重要性						森井	
10. カイ二乗検定						森井	
11. 実験計画と分散分析						森井	
12. 雑誌論文紹介(レビュー)						森井	
13. 雑誌論文紹介(方法・結果)						森井	
14. 雑誌論文紹介（考察・問題点）						森井	
15. 研究テーマの発表とまとめ						森井	
教科書							
教・書籍名1	教科書は使用しない。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	適宜、指示する。				参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：修士論文作成にむけて、研究テーマを設定する 到達目標： 1. 先行研究について情報収集し、何がどこまで明らかにされているか把握できる 2. 研究テーマが設定できる						
授業概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているかを把握する。春学期の終わりまでに研究テーマを設定することを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	発表内容(80%)と討議への参加態度（20％）により評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表内容について適宜フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む						
事前学習・事後学習とその時間	テーマに直接・間接的にかかわる文献をよく読み込むこと。日に1時間以上の自己学修を確保してほしい。						
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 研究の基本指針 3. 行動規範と研究倫理 4. 先行研究の調べ方：学術誌と大学紀要 5. 先行研究の調べ方：検索サイト 6. 先行研究の調べ方：学会発表 7. テーマの検討：代表的な知見 8. テーマの検討：代表的な先行研究 9. テーマの検討：先行研究の課題 10. テーマの検討：関連研究の概観 11. テーマと研究計画：試案づくり 12. テーマと研究計画：研究手法 13. テーマと研究計画：目的 14. テーマと研究計画：目的と方法 15. テーマと研究計画：方法と分析方法						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版				教・出版社名1	東京書籍	
教・著者名1	平井明代				教・I S B N 1	448902262X	
教・書籍名2	ポジティブなこころの科学				教・出版社名2	サイエンス社	
教・著者名2	堀毛一也				教・I S B N 2	4781914589	
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。 関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。						
授業概要	認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法 論等について,個々に指導または,ゼミにおける発表等を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは、次の講義の最初およびteamsを用いて行う。						
履修条件・注意事項	学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	本講は、授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い、教員が行う研究に積極的に参加することで、学修効果も上がり、より実践的に学ぶことが可能となる。また、興味のあるテーマについて、積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで、討議への参加度の増大にもつながる。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション&研究倫理について 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表 (テーマに沿った実験計画か?) 6. 実験計画発表 (その実験計画は可能か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論 (データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論 (まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. 総括						橋本翠	
教科書							
教・書籍名1	研究内容および研究の進捗状況に応じて適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	脳波解析入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著)				参・I S B N 1	978-4-13-012111-8	
参・書籍名2	心理学のための事象関連電位ガイドブック				参・出版社名2	北大路書房	
参・著者名2	入戸野宏(著)				参・I S B N 2	4-7628-2462-3	



授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、特に福祉・教育・司法犯罪領域に関連する研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：関連する文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の自身の研究テーマを決定して研究計画を立てることができる。						
授業概要	主に実践研究の手法を学ぶ。 ①先行研究や実践研究論文について、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献の講読を行いながら臨床的意義や研究仮説を検討し、研究の計画を立案する。 ③実践方法、データの集積、分析、論文執筆方法について学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢（40%） ②理解促進のために提出するレポートやプレゼンテーションの内容（30%） ③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等（30%） 以上を、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究を遂行するため、授業時間外の自己学修や、指導教員が行う臨床実践や研究への参加が必要である。 自身の実践以外にも積極的に参加すること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学修としては、 ①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	毎週月曜日4限目をオフィスパワーとする（研究室） ゼミ以外の時間に相談や個別指導を希望する際は、各自で連絡を取り、日程を確認すること。						
授業計画							担当者
1. オリエンテーション 2. これまでの研究活動の発表 3. 研究テーマの検討 4. 文献に関する検討（1）先行研究の紹介 5. 文献に関する検討（2）先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討（3）ディスカッション 7. 研究方法（1）研究倫理 8. 研究方法（2）データの収集法 9. 研究方法（3）データの分析 10. 研究方法（4）実践研究の進め方 11. 研究方法（5）実践研究の準備 12. 研究テーマ決定 13. 研究計画の立案 14. 実践研究の計画・準備 15. まとめと今後の計画							全回：藤原直子
教科書							

教・書籍名 1	研究内容・研究方法に応じて、適宜、参考書籍や資料を提示する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：関連する文献の検索・レビューを通じて、修士論文の自身の研究テーマを決定して研究計画を立てることができる。						
授業概要	研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆について指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	①文献講読、その内容理解への努力、また研究に対する姿勢（60%） ②課題の提出やプレゼン（20%） ③研究計画の立案、倫理的配慮等（20%） 以上を、総合的に評価する。 なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	研究を進めるためには、授業時間外の自己学修や、指導教員が実施する実践への参加が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4時限 研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理について 2. これまでの研究活動の発表 3. 研究テーマの検討 4. 文献に関する検討（1）先行研究の紹介 5. 文献に関する検討（2）先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討（3）ディスカッション 7. 研究方法指導（1）研究倫理 8. 研究方法指導（2）データの収集方法 9. 研究方法指導（3）データの分析方法 10. 研究方法指導（4）実践研究の進め方 11. 研究方法指導（5）実践研究の準備 12. 研究テーマ決定 13. 研究計画の立案 14. 研究計画の発表 15. まとめ						宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		

参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標：文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。						
授業概要	先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション						
評価方法と割合	演習課題への取組（40％）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。						
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理教育						土居	
2. 修士論文の作成について						土居	
3. 研究室におけるこれまでの研究						土居	
4. 修論の方向性について						土居	
5. 修論のテーマについて						土居	
6. 修論テーマの決め方						土居	
7. 修論の目的の書き方						土居	
8. 修論の方法の考え方						土居	
9. 修論の方法の手続き						土居	
10. 修論の倫理的観点						土居	
11. 修論の結果の書き方						土居	
12. 修論の考察の書き方						土居	
13. 修論のテーマを考える						土居	
14. 修論のテーマを決める						土居	
15. まとめ						土居	
教科書							
教・書籍名1	修士研究に関する、プリント配布を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	これから論文を書く若者のために				参・出版社名1	共立出版	
参・著者名1	酒井聡樹				参・I S B N 1	978-4-320-00595-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに研究計画の検討を行い、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができる。						
授業概要	特別研究Ⅰに引き続き、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢（30％）、②文献収集と内容理解への努力（30％）、③研究の進捗状況報告（40％）から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	文献収集と内容理解への努力、研究の進捗状況報告については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ（予習）を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること（復習）。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回 研究方法論に関する知見の確認 第2回 関連文献の追加収集(和文献) 第3回 関連文献の追加収集(欧文献) 第4回 文献の整理と内容分析 第5回 文献の整理と内容の理解 第6回 文献に基づくディスカッション 第7回 研究内容に関する考察（1）先行文献の吟味 第8回 研究内容に関する考察（2）先行文献の活用 第9回 研究内容に関する考察（3）仮説の設定 第10回 研究内容に関する考察（4）仮説の妥当性検討 第11回 研究計画の作成（1）研究方法の確立 第12回 研究計画の作成（2）研究方法の妥当性 第13回 研究計画の作成（3）研究方法に関する検討 第14回 研究計画の作成（4）計画の実施方法の検討 第15回 まとめ						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回講義時に授業資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	心理学研究法 5 「社会」				参・出版社名1	誠信書房	

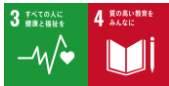
参・著者名 1	岡 隆 編著	参・ I S B N 1	987-4-414-30185-4
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ：代表的精神障害の診断と症状評価を理解する。 到達目標：大学院の学生が、精神科医療機関を訪れた患者さんの問診時に、適切な精神症状の評価に基づく精神医学的診断が出来るようになることを目標とする。						
授業概要	精神障害の診断に世界的に使用されているDSM-V或はICD-10 or 11に基づいた、適正な診断が出来るようになるために必要な精神医学的知識を学ぶ。多くの精神疾患には、それぞれの病状の重症度を評価するための症状評価尺度が開発されており、代表的な症状評価尺度が適正に使えるよう精神症状論を学ぶ。講義中に用いたスライドを、プリントして配布する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「代表的精神障害の診断と症状評価を理解する。」の到達度について、知識および能力を計るために、授業での発表を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、復習を1時間程度行う。						
オフィスアワー	木曜日2限目、6号館4F6401研究室						
授業計画						担当者	
1. 研究倫理に準拠した責任ある研究活動 2. 転換性障害・解離性障害 3. 身体症状症 4. パーソナリティー障害 5. 摂食障害 6. ケースカンファレンス 7. 睡眠－覚醒障害 8. 物質依存症 9. 器質性・症状性精神障害 10. 認知症（症状評価と診断） 11. 認知症（治療法・ケア法） 12. 自閉性障害とADHDなど 13. リエゾン精神医学 14. てんかんと器質性・症状性精神障害 15. ケースカンファレンス						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	標準精神医学				教・出版社名1	医学書院	
教・著者名1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・I S B N 1	ISBN978-4-260-02041-1	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

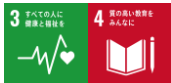
授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは、修論作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込み、および第1研究(予備的研究)を開始することである。						
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していくとともに、予備的な実験の開始につなげる。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（50％）と修論テーマの絞り込み程度による（50％）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各自の発表に基づいてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	修論のテーマにそった論文を検索し、精読すること。 いつでも発表できるように準備しておくこと。 最低3時間の予習・復習を行うこと。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション・経過報告 2. 最重要論文の紹介と討議（1） 3. 最重要論文の紹介と討議（2） 4. 先行研究の紹介とテーマの発表 5. 研究計画の作成と討議 6. 実験課題の選択と作成 7. 実験プログラムの作成 8. 実験実施にあたっての注意 9. 表計算ソフトの活用 10. 記述統計（度数分布・期待値） 11. 記述統計（標準偏差・標準誤差） 12. 記述統計（相関） 13. 実験結果の発表 14. 実験の問題点等についての討議 15. まとめ・研究計画の報告						森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書							
教・書籍名1	テキストは使用しない。 適宜、プリント等を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：修士論文作成に向けて、研究テーマを設定し、研究計画をたてる 到達目標： 1. 先行研究について概観し、何がどこまで明らかにされているかを知る 2. 研究テーマを設定できる 3. 研究計画をたてることができる						
授業概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。先行研究を概観し報告することを通して、何がどこまで明らかにされているか、今後の課題は何か、を把握する。秋学期の終わりまでに研究計画を立てることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回の報告内容（80％）と授業態度（20％）により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	報告内容について適宜フィードバックする。						
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む						
事前学習・事後学習とその時間	テーマに直接・間接的にかかわる文献を読み込むこと。予習・復習にそれぞれ2時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 先行研究の概観：知見のまとめ 3. 先行研究の概観：代表的な研究 4. 先行研究の概観：課題 5. 先行研究の概観：研究手法 6. テーマと研究計画：目的 7. テーマと研究計画：独自性と発展可能性 8. テーマと研究計画：目的と仮説 9. テーマと研究計画：研究手法 10. テーマと研究計画：研究手法と分析 11. テーマと研究計画：試案 12. テーマと研究計画：予備調査（実験） 13. テーマと研究計画：予備調査（実験）の結果 14. テーマと研究計画：予備調査の課題 15. まとめ						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方				教・出版社名1	東京書籍	
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2	教育・心理系研究のためのデータ分析入門				教・出版社名2	東京書籍	
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。 関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。						
授業概要	認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法論等について,個々に指導, または,ゼミにおける発表等を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。 毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは, 次の講義の最初およびteamsを用いて行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回,予習,復習に各2時間をかけ,学習すること。						
オフィスアワー	月曜5限:個人研究室						
授業計画						担当者	
1. 今後の研究計画の発表&研究倫理について 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表(テーマに沿った実験 計画か?) 6. 実験計画発表(その実験計画は可能 か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての 実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. ポスター発表(学会発表に向けての 予行練習)						橋本翠	
教科書							
教・書籍名1	研究内容、研究の進捗状況に応じて、適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	脳波解析入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著)				参・I S B N 1	978-4-13-012111-8	
参・書籍名2	心理学のための事象関連電位ガイドブック				参・出版社名2	北大路書房	
参・著者名2	入戸野宏(著)				参・I S B N 2	4-7628-2462-3	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、特に福祉・教育・司法犯罪領域に関連する研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：自身の研究計画を立てて研究準備をするとともに、複数の先行研究をまとめることができる。						
授業概要	主に実践研究の手法を学ぶ。 ①先行研究や実践研究論文について、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献の講読を行いながら臨床的意義や研究仮説を検討し、研究の計画を立案する。 ③実践方法、データの集積、分析、論文執筆方法について学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢（40%） ②理解促進のために提出するレポートやプレゼンテーションの内容（30%） ③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等（30%） 以上を、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。 毎回の授業内容について十分な準備を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学修としては、 ①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	毎週月曜日5限目をオフィスアワーとする（研究室） ゼミ以外の時間に相談や個別指導を希望する際は、各自で連絡を取り、日程を確認すること。						
授業計画							担当者
1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 研究テーマの報告・検討 4. 文献に関する検討（1）先行研究の紹介 5. 文献に関する検討（2）先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討（3）先行研究のレビュー発表 7. 研究計画（1）計画立案 8. 研究計画（2）データの収集・質問紙検討 9. 研究計画（3）データの分析方法 10. 研究計画（4）仮説・考察 11. 研究準備（1）実践対象者の決定・依頼 12. 研究準備（2）倫理的配慮の確認、倫理審査委員会の書類作成・提出 13. 研究準備（3）対象者の募集・内容説明 14. 中間発表の資料作成・プレゼン 15. 中間発表・まとめ							全回：藤原直子
教科書							
教・書籍名 1	研究内容・研究方法に応じて、適宜、参考書籍や資料を提示する。					教・出版社名 1	

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：関連する文献の検索・レビューを通じて、修士論文の自身の研究テーマを決定して研究計画を立てることができる。						
授業概要	研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆、研究倫理について指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	①文献講読、その内容理解への努力、また研究に対する姿勢（60%） ②課題の提出やプレゼン（20%） ③研究計画の立案、倫理的配慮等（20%） 以上を、総合的に評価する。 なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	研究を進めるためには、授業時間外の自己学修や、指導教員が実施する実践への参加が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4時限 研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 研究テーマの報告・検討 4. 文献に関する検討（1） 先行研究の紹介 5. 文献に関する検討（2） 先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討（3） ディスカッション 7. 研究計画指導（1） 研究倫理 8. 研究計画指導（2） データの収集・質問紙作成 9. 研究計画指導（3） データの分析方法 10. 研究計画指導（4） 仮説の検討 11. 研究準備（1） 調査対象者の決定・依頼 12. 研究準備（2） 倫理審査の書類作成 13. 研究準備（3） 対象者への研究内容説明 14. 中間発表の資料作成・プレゼン 15. 中間発表・まとめ						宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		

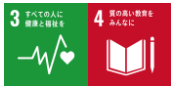
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標：文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。						
授業概要	先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディベート						
評価方法と割合	演習課題への取組（40％）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。						
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						土居	
2. 第1研究のテーマの決定						土居	
3. 研究計画の考案						土居	
4. 研究計画の作成						土居	
5. 調査用紙の考案						土居	
6. 調査用紙の作成						土居	
7. 調査の手配						土居	
8. 調査実施						土居	
9. データの打ち込み						土居	
10. データの整理						土居	
11. 統計的解析						土居	
12. 合成得点の算出						土居	
13. 基礎データの算出						土居	
14. 信頼性係数の算出						土居	
15. まとめ						土居	
教科書							
教・書籍名1	修士研究に関する、プリント配布を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	これから論文を書く若者のために				参・出版社名1	共立出版	
参・著者名1	酒井聡樹				参・I S B N 1	978-4-320-00595-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができるとともに、論文を作成することが出来る。						
授業概要	修士論文作成に向けて、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢（30％）、②文献収集と内容理解への努力（30％）、③研究の進捗状況報告（40％）から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	文献収集と内容理解への努力、研究の進捗状況報告については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ（予習）を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること（復習）。						
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回 研究方法論に関する知見の整理・確認及び研究倫理に関する教育 第2回 関連文献の追加収集(和文献) 第3回 関連文献の追加収集(欧文献) 第4回 修士論文のテーマの検討 第5回 修士論文の内容構成の検討 第6回 研究計画の作成（1）研究方法の確立 第7回 研究計画の作成（2）研究方法の妥当性 第8回 研究計画の作成（3）研究方法に関する検討 第9回 研究計画の作成（4）計画の実施方法の検討 第10回 修士論文の内容に関する考察（1）先行文献の吟味 第11回 修士論文の内容に関する考察（2）先行文献の活用 第12回 修士論文の内容に関する考察（3）仮説の設定 第13回 修士論文の内容に関する考察（4）仮説の妥当性検討 第14回 修士論文の全体構成に関するディスカッション 第15回 まとめ						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回授業時に資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1	心理学理論ガイドブック				参・出版社名1	ナカニシヤ出版	
参・著者名1	夏堀睦他編著				参・ISBN1	978-4-7795-0161-6	
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

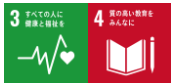
参・I S B N2

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・発表
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発を理解する。 到達目標：学生は、分子精神薬理学及び脳画像学を用いた精神障害の病態解明についての研究を学び、このような研究を用いた精神障害の診断・治療バイオマーカーの評価が出来るようになる。						
授業概要	分子精神薬理学及び脳画像学を用いた病態解明の進んでいる、気分障害（うつ病・双極性障害）・統合失調症・不安障害などを取り上げ、最先端の病態研究の結果を学ぶ。その上でこれらの病態研究の結果から導き出された診断や治療反応性予測のためのバイオマーカーについて、薬物治療・認知行動療法・Device-based Treatmentによるバイオマーカーの変動を学び、実際の治療場面での活用や評価が出来るよう習熟する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発を理解する」の到達度について、知識 および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、予習・復習を各1時間程度行う。						
オフィスアワー	火曜3限、6号館4階6401研究室						
授業計画						担当者	
1. 研究倫理に準拠した責任ある研究活動 2. 精神薬理学・脳画像学 3. うつ病の病態と治療 4. 薬物治療とうつ病バイオマーカー 5. 認知行動療法とうつ病バイオマーカー 6. Device-based Treatmentとうつ病バイオマーカー 7. 双極性障害の病態と治療 8. 双極性障害とうつ病の相違点 9. 双極性障害のバイオマーカー 10. 統合失調症の病態と治療 11. 統合失調症のリハビリテーション 12. 薬物治療と統合失調症バイオマーカー 13. 認知行動療法と統合失調症バイオマーカー 14. Device-based Treatmentと統合失調症バイオマーカー 15. バイオマーカー研究の将来展望						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	標準精神医学				教・出版社名1	医学書院	
教・著者名1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・I S B N 1	ISBN978-4-260-02041-1	

教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

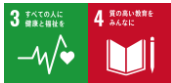
授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは、修論作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込み、および第1研究(予備的研究)を開始することである。						
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していくとともに、予備的な実験の開始につなげる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	受講態度（50％）と修論テーマの絞り込み程度による（50％）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各自の発表に基づいてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	修論のテーマにそった論文を検索し、精読すること。 いつでも発表できるように準備しておくこと。 授業の準備等に4時間/週は必要である。						
オフィスアワー	月曜 4 限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション & 研究倫理について 2. 経過報告 3. 最重要論文の紹介と討議 4. 先行研究の紹介とテーマの発表 5. 研究計画の作成と討議 6. 実験課題の選択と作成 7. 実験プログラムの作成 8. 実験実施にあたっての注意 9. 表計算ソフトの活用 10. 記述統計（度数分布・期待値） 11. 記述統計（標準偏差・標準誤差） 12. 記述統計（相関） 13. 実験結果の発表 14. 実験の問題点等についての討議 15. まとめ・研究計画の報告						森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書							
教・書籍名 1	テキストは使用しない。 適宜、プリント等を配布する。				教・出版社名 1		
教・著者名 1					教・I S B N 1		
教・書籍名 2					教・出版社名 2		
教・著者名 2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名 1					参・出版社名 1		
参・著者名 1					参・I S B N 1		
参・書籍名 2					参・出版社名 2		
参・著者名 2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：修士論文作成に向けて、調査や実験を実施し、結果を分析する。 到達目標： 1. 研究計画に基づき、調査や実験をおこなう。 2. 結果を定められた手法に基づき分析できる。						
授業概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。この学期の終了までに、調査や実験を実施して結果の分析ができることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	7回以上の発表を行うとともに、修士論文の中間報告を一定の水準で行った者に対して単位を与える。発表の内容と水準（80％）および取り組み姿勢（20％）により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	研究発表について適宜フィードバックする。						
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む。						
事前学習・事後学習とその時間	テーマに直接・間接的にかかわる文献を大量に読み込むこと。日に1時間以上の自己学修を確保したい。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーションおよび研究倫理 2. 研究計画：目的と仮説 3. 研究計画：方法の検討 4. 研究計画：分析 5. 予備調査（実験）：実施 6. 予備調査（実験）：結果分析 7. 予備調査（実験）：課題の検討 8. 調査・実験：実施 9. 調査・実験：結果 10. 調査・実験：記述統計 11. 調査・実験：図表 12. 調査・実験：統計 13. 調査・実験：統計結果 14. 調査・実験：統計の解釈 15. 調査・実験：統計のまとめ						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方				教・出版社名1	東京書籍	
教・著者名1					教・I S B N 1	448902262X	
教・書籍名2	教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版				教・出版社名2	東京書籍	
教・著者名2					教・I S B N 2	448902262X	
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。 関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。						
授業概要	認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法 論等について,個々に指導または,ゼミにおける発表等を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。 毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは、次の講義の最初およびteamsを用いて行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	本講は、授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い、教員が行う研究に積極的に参加することで、学修効果も上がり、より実践的に学ぶことが可能となる。また、興味のあるテーマについて、積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで、討議への参加度の増大にもつながる。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション&研究倫理について 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表(テーマに沿った実験 計画か?) 6. 実験計画発表(その実験計画は可能 か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての 実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. 総括						橋本翠	
教科書							
教・書籍名1	研究の内容、研究の進捗状況に応じて、適宜支持する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	脳波解析入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著)				参・I S B N 1	978-4-13-012111-8	
参・書籍名2	心理学のための事象関連電位ガイドブック				参・出版社名2	北大路書房	
参・著者名2	入戸野宏(著)				参・I S B N 2	4-7628-2462-3	

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、特に福祉・教育・司法犯罪領域に関連する研究および心理臨床実践を行う。 到達目標：自身の研究テーマについて文献研究を行うとともに、現場において心理臨床実践を行うことができる。						
授業概要	学生自身が心理臨床に関する実践研究を行う。 ①先行研究や実践研究論文についてまとめ、文章で表現し考察する力を高める。 ②研究の計画に基づいて実践を行い、効果検証を行う。 ③結果を分析し、研究意義や課題について考察しながら、修士論文を執筆する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢（40%） ②理解促進のために提出するレポートやプレゼンテーションの内容（30%） ③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等（30%） 以上を、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。 毎回の授業内容について十分な準備や資料作成を行うとともに、受講後は、課題を整理し、次回の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学修としては、 ①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	毎週月曜日4限目をオフィシアワーとする（研究室） ゼミ以外の時間に相談や個別指導を希望する際は、各自で連絡を取り、日程を確認すること。						
授業計画							担当者
1. オリエンテーション 2. 先行研究の発表 3. 研究計画の発表・検討 4. 実践に関する検討（1）目的と方法 5. 実践に関する検討（2）実践内容 6. 実践に関する検討（3）効果測定 7. 研究実践（地域における心理教育） 8. 研究実践（1）実践内容の検討 9. 研究実践（2）効果測定の分析 10. 研究実践（3）社会的妥当性の検討 11. 研究実践（4）今後の課題の検討 12. 論文執筆計画の作成 13. 論文執筆における倫理的配慮・個人情報保護の確認 14. 序論執筆・発表 15. まとめと今後の計画							全回：藤原直子

教科書			
教・書籍名 1	研究内容・研究方法に応じて、適宜、参考書籍や資料を提示する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

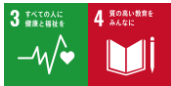
授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：研究テーマに沿った、先行研究のレビュー、データの収集と分析、考察を通じ、修士論文を完成させることができる。						
授業概要	研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆について指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	研究に関する取り組み姿勢（60％）、発表態度（20％）、研究の遂行状況（20％）等を総合的に評価する。なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次回の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	研究を進めるためには、授業時間外の自己学修が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の自己学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	火曜4限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理について 2. 研究の進行状況の報告 3. 研究方法（発表と検討） 4. 倫理的配慮（発表と検討） 5. 研究テーマに関する文献発表 6. 研究テーマに関する文献発表 7. 研究テーマに関する文献発表 8. 調査・分析の途中経過発表 9. 調査・分析の途中経過発表 10. 分析結果（発表と検討） 11. 分析結果（発表と検討） 12. 分析結果の考察（発表と検討） 13. 分析結果の考察（発表と検討） 14. 分析結果の考察（発表と検討） 15. まとめ						宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標：文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。						
授業概要	先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション						
評価方法と割合	演習課題への取組（40％）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。						
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理教育						土居	
2. 第2研究のテーマの決定						土居	
3. 研究計画の考案						土居	
4. 研究計画の作成						土居	
5. 調査用紙の考案						土居	
6. 調査用紙の作成						土居	
7. 調査の手配						土居	
8. 調査実施						土居	
9. データ打ち込み						土居	
10. データの整理						土居	
11. 統計的解析						土居	
12. 合成得点の算出						土居	
13. 基礎データの算出						土居	
14. 信頼性係数の算出						土居	
15. まとめ						土居	
教科書							
教・書籍名1	修士研究に関する、プリント配布を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	これから論文を書く若者のために				参・出版社名1	共立出版	
参・著者名1	酒井聡樹				参・I S B N 1	978-4-320-00595-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができるとともに、論文を作成することが出来る。						
授業概要	修士論文作成に向けて、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(30%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③研究の進捗状況報告(40%)から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	文献収集と内容理解への努力、研究の進捗状況報告については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回 研究方法論に関する知見の整理・確認 第2回 関連文献の追加収集(和文献) 第3回 関連文献の追加収集(欧文献) 第4回 修士論文の内容構成の検討 第5回 修士論文のエビデンスに関する集計分析 第6回 修士論文のエビデンスに関わる図表作成案の検討 第7回 修士論文の作成(1) 研究目的に関する整理 第8回 修士論文の作成(2) 研究目的の作成 第9回 修士論文の作成(3) 研究方法に関する検討 第10回 修士論文の作成(4) 研究方法の作成 第11回 修士論文の作成(5) 研究内容の結果に関するまとめ 第12回 修士論文の作成(6) 研究内容の結果に関する考察 第13回 修士論文の作成(7) 研究内容の全体的考察 第14回 修士論文の作成(8) 引用参考文献の整理 第15回 まとめ						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回授業時に資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

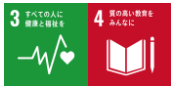
参・書籍名 1	評価される博士・修士論文の書き方考え方	参・出版社名 1	同文館出版
参・著者名 1	新堀聰著	参・ I S B N 1	4-495-86511-0
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・発表
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発を理解する。 到達目標：学生は、分子精神薬理学及び脳画像学を用いた精神障害の病態解明についての研究を学び、このような研究を用いた精神障害の診断・治療バイオマーカーの評価が出来るようになる。						
授業概要	分子精神薬理学及び脳画像学を用いた病態解明の進んでいる、気分障害（うつ病・双極性障害）・統合失調症・不安障害などを取り上げ、最先端の病態研究の結果を学ぶ。その上でこれらの病態研究の結果から導き出された診断や治療反応性予測のためのバイオマーカーについて、薬物治療・認知行動療法・Device-based Treatmentによるバイオマーカーの変動を学び、実際の治療場面での活用や評価が出来るよう習熟する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発を理解する。」の到達度について、知識 および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、予習・復習を各1時間程度行う。						
オフィスアワー	火曜 3 限、6 号館 4 階6401研究室						
授業計画						担当者	
1. 研究倫理に準拠した責任ある研究活動 2. 不安障害の病態 3. 薬物治療と不安障害バイオマーカー 4. 認知行動療法と不安障害バイオマーカー 5. 強迫性障害(OCD)の病態 6. 薬物治療とOCDバイオマーカー 7. 認知行動療法とOCDバイオマーカー 8. 外傷後ストレス障害(PTSD)の病態（臨床症状と診断） 9. PTSD（病態メカニズムと治療法） 10. 薬物治療とPTSDバイオマーカー 11. 認知行動療法とPTSDバイオマーカー 12. 認知症の病態 13. エピジェネティクス総論 14. エピジェネティック機構からみた精神障害 15. エピジェネティックバイオマーカーと精神障害						森信 繁	
教科書							
教・書籍名 1	標準精神医学				教・出版社名 1	医学書院	
教・著者名 1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・I S B N 1	ISBN978-4-260-02041-1	
教・書籍名 2					教・出版社名 2		

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは、修論作成に向けてのデータの吟味と分析法および考察の検討であり、到達目標は修士論文の草稿作成である。						
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、実験データ分析方法・結果等を確認しながら、自身の研究を修士論文へとまとめていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（50％）と関連文献の理解度（30％）、発表（20％）から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習中のディスカッションの中で、適宜、コメント（フィードバック）を行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	修士課程のゼミらしく、とにかく徹底的に自分で調べて、それでもわからないところは質問する。週に4時間以上の準備等の学習が必要である。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 修論研究途中発表 3. 文献の追加収集と紹介（要旨） 4. 文献の追加収集と紹介（詳細） 5. 最終実験の検討 6. 実験方法の検討・確認 7. 実験実施と問題点の検討 8. 結果の分析と考察の検討 9. 論文の作成：問題 10. 論文の作成：方法 11. 論文の作成：結果 12. 論文の作成：図表の作成 13. 論文の作成：全体考察 14. 論文抄録の作成 15. まとめ：発表会に向けて						森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書							
教・書籍名1	教科書は使用しない。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	心理学研究法入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	南風原・市川・下山				参・I S B N 1	4-13-012035-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：修士論文作成を作成する 到達目標： 1. 研究計画に基づき、調査や実験をおこなう 2. 結果を定められた手法に基づき分析できる 3. 問題、方法、結果、考察という構成にしたがい、論文を作成できる						
授業概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。問題、方法、結果、考察という構成にしたがい、抄録および論文を作成できることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回の報告内容（80％）と授業態度（20％）により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	研究発表について適宜フィードバックする。						
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む						
事前学習・事後学習とその時間	論文作成のために、日に2時間以上の自己学修を期待する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 調査・実験：実施 3. 調査・実験：結果 4. 調査・実験：記述統計 5. 調査・実験：図表 6. 調査・実験：統計 7. 調査・実験：統計結果 8. 調査・実験：結果の解釈 9. 抄録：問題、方法 10. 抄録：結果、考察 11. 論文：序論 12. 論文：目的 13. 論文：方法、結果 14. 論文：考察 15. 論文：まとめ						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方				教・出版社名1	東京書籍	
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2	教育・心理系研究のためのデータ分析入門				教・出版社名2	東京書籍	
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。 関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。						
授業概要	認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法論等について,個々に指導, または,ゼミにおける発表等を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	大学院博士(前期)課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックについては講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回,予習,復習に各2時間をかけ,学習すること。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. 今後の研究計画の発表&研究倫理について 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表(テーマに沿った実験 計画か?) 6. 実験計画発表(その実験計画は可能 か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての 実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. ポスター発表(学会発表に向けての 予行練習)						橋本翠	
教科書							
教・書籍名1	研究内容、研究の進捗状況に応じて、適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	脳波解析入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著)				参・I S B N 1	978-4-13-012111-8	
参・書籍名2	心理学のための事象関連電位ガイドブック				参・出版社名2	北大路書房	
参・著者名2	入戸野宏(著)				参・I S B N 2	4-7628-2462-3	

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域に関する実践研究を行い、修士論文を執筆する。 到達目標：研究計画に基づいて実践し、論文としてまとめることができる。						
授業概要	主に実践研究について論文の執筆を進める。 ①先行研究や実践研究論文についてまとめ、自身の研究と関連付けてまとめる思考力や文章力を高める。 ②実践した内容についてまとめ、方法、データの分析、結果、考察について指導し論文を完成させる。 ③論文の概要を抄録にまとめるとともに、口頭にて発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢（40%） ②理解促進のために提出するレポートやプレゼンテーションの内容（30%） ③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等（30%） 以上を、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。 研究のまとめや論文執筆を計画的に進めていくとともに、課題を整理してゼミに参加すること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学修としては、 ①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	毎週月曜日5限目をオフィスアワーとする（研究室） ゼミ以外の時間に相談や個別指導を希望する際は、各自で連絡を取り、日程を確認すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 先行研究のまとめ、発表 4. 実践の報告 5. 実践の結果分析、結果の検討 6. 今後の課題と執筆計画の発表 7. 論文執筆（1） 序論 8. 論文執筆（2） 研究方法 9. 経過発表・検討（序論～方法） 10. 論文執筆（3） 結果・考察 11. 経過発表・検討（結果～考察） 12. 論文の仕上げ（表紙～文献まで） 13. 発表準備（資料作成、発表練習） 14. 修士論文発表（ポスター発表） 15. 修士論文・口頭試問 * 論文執筆は授業時間外に計画的に行い、随時指導する。						全回：藤原直子	
教科書							
教・書籍名 1	研究内容・研究方法に応じて、適宜、参考書籍や資料を提示する。				教・出版社名 1		

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

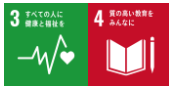
授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／ 4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：研究テーマに沿った、先行研究のレビュー、データの収集と分析、考察を通じ、修士論文を完成させることができる。						
授業概要	研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆について指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	研究に関する取り組み姿勢（60％）、発表態度（20％）、研究の遂行状況（20％）等を総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	研究を進めるためには、授業時間外の自己学修が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の自己学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	火曜4限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理について 2. 研究の進行状況の報告 3. 研究方法（発表と検討） 4. 研究結果（発表と検討） 5. 研究結果（発表と検討） 6. 研究結果の考察（発表と検討） 7. 研究結果の考察（発表と検討） 8. 序論（発表と検討） 9. 序論（発表と検討） 10. 研究抄録（発表と検討） 11. 研究抄録（発表と検討） 12. ポスター発表の準備 13. ポスター発表（発表と検討） 14. ポスター発表（発表と検討） 15. まとめ						宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

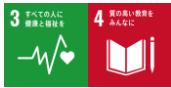
授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標：文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。						
授業概要	先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション						
評価方法と割合	演習課題への取組（40％）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。						
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						土居	
2. データの解析						土居	
3. 因子分析						土居	
4. t検定						土居	
5. 相関						土居	
6. 分散分析						土居	
7. 重回帰分析						土居	
8. 結果の検討						土居	
9. 結果執筆						土居	
10. 考察の検討						土居	
11. 考察執筆						土居	
12. 修論完成						土居	
13. 修論抄録の作成						土居	
14. 修論発表の資料作成						土居	
15. 発表練習						土居	
教科書							
教・書籍名1	修士研究に関する、プリント配布を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	これから論文を書く若者のために				参・出版社名1	共立出版	
参・著者名1	酒井聡樹				参・I S B N 1	978-4-320-00595-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	臨床心理学特論			担当者	若森 孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	公認心理師に求められる知識と理論を学ぶことをテーマとする。 到達目標は、心理学検定1級および公認心理師試験6割得点以上の水準の知識を習得することである。						
授業概要	優れた臨床実践を進めるには、心理学はもちろんのこと、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野における法律や制度に関する知識が求められる。この授業では、公認心理師に必要な知識や理論を体系的に修得することを目指す。授業は、受講者がお互いの理解を確認し合う形式で進める。						
アクティブラーニングの内容	反転授業						
評価方法と割合	心理学検定の1級を取得するとともに、年度末の試験（公認心理師試験と同レベル）において6割以上の得点者に単位を与える。各単元の確認テストの成績（80％）、取組み姿勢や発表（20％）にて、秀・優・良・可の評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各単元の確認テストについては、授業時にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	毎回の出席はもちろんのこと、受講者同士が支えあって互いの知識の定着に努めることを期待する。						
事前学習・事後学習とその時間	各単元の予習と復習を徹底することを期待する。予習に2時間、復習に3時間の自己学修を求めたい。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 職責、多職種連携 3. 研究 4. 知覚、学習、感情 5. 脳、神経 6. 社会、集団 7. 発達、発達障害 8. 精神疾患 9. 健康、医療、 10. 福祉 11. 司法・犯罪 12. 産業 13. 事例 14. 問題演習 15. まとめ 16. 試験						若森孝彰	
教科書							
教・書籍名1	心理教科書公認心理師完全合格問題集2022年版				教・出版社名1	翔泳社	
教・著者名1	公認心理師試験対策研究会				教・I S B N 1	4798172731	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：代表的な心理検査を習得することを通して、心理アセスメントの基本を理解する。 到達目標：知能検査及びその他の心理検査の実施や解釈が一通りできる。						
授業概要	本演習では、知能検査について体験を通して学ぶ。知能検査では、WISC知能検査及びWAIS知能検査の結果の処理、分析、所見の書き方を学修する。授業時間の進捗によっては、その他の心理検査（神経心理学的検査・投影法等）を行う。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク						
評価方法と割合	検査法の理解、実施法の習得、および評価法を確実に学習するため、一つの検査が終わり次第、レポート提出を求める。レポートの提出とその内容（50%）と授業中の課題の取り組み状況（50%）により評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は心理検査の結果に基づいてレポートを作成する。						
履修条件・注意事項	授業は、二人グループに分かれて検査を行う。一方の学生が休むともう一方の学生が検査ができなくなってしまうことから、休まないように。						
事前学習・事後学習とその時間	予習は配布された資料について学習してくること。講義後には、課題やレポートの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	土居：月曜2限（土居研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						土居	
2. 心理アセスメントについて						土居	
3. WAIS：検査の説明						土居	
4. WAIS：実施						土居	
5. WAIS：採点						土居	
6. WAIS：解釈						土居	
7. WISC：検査の説明						土居	
8. WISC：実施						土居	
9. WISC：採点						土居	
10. WISC：解釈						土居	
11. SCT：説明と実施						土居	
12. P-Fスタディ：説明と実施						土居	
13. TAT：説明と実施						土居	
14. BGT：説明と実施						土居	
15. 質問紙：説明と実施						土居	
認定レポート						土居	
教科書							
教・書籍名1	プリント配布、板書を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	心理支援に関する理論と実践			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： ・心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、効果的な支援をおこなっていくための実践的な知識とスキルを養う。 到達目標： ・心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握できる。 ・支援計画を立て、それを実行できる。						
授業概要	心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、効果的な支援をおこなっていくための実践的な知識やスキルについて、ロールプレイや事例検討を通して修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	レポート50%、スキルの習得程度30%、プレゼンテーション10%、受講姿勢10%で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートに関しては、授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	・実技演習を伴う授業のため、毎回の出席を原則とする。 ・ロールプレイの際には、練習相手への気遣いを大切にすること。						
事前学習・事後学習とその時間	指定テキストについては早めに読み進めておくこと。予習・復習に3時間以上の学修を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限 個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 心理支援の基本指針 3. 受理面接 4. 受理面接：問題の所在、家族歴 5. 受理面接：問題のパターン、現病歴 6. 受理面接：生物・心理・社会モデル 7. 面接の実際：ニーズの把握 8. 面接の実際：ゴールづくり 9. 面接の実際：問題パターンと解決努力 10. 面接の実際：例外、コーピング 11. 面接の実際：コンプリメント 12. 面接の実際：さまざまな質問 13. 事例研究：SFBT 14. 事例研究：エリクソン 15. まとめ						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチに向けて				教・出版社名1	遠見書房	
教・著者名1	日本ブリーフサイコセラピー学会				教・I S B N 1		
教・書籍名2	認知行動療法とブリーフセラピーの接点				教・出版社名2	日本評論社	
教・著者名2	津川秀夫・大野裕史				教・I S B N 2	4535983925	
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	保健医療分野に関する理論と支援の展開			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・発表
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：最新の脳科学的知見からこころの働きを理解する。 到達目標：学生が、精神症状の脳科学的理解に立脚した精神保健的介入が行える。						
授業概要	不安・抑うつ・依存・記憶・ストレスなどの高次脳機能のメカニズムについて治療薬の機序も合わせ、脳画像学・分子生物学・エピジェネティクスの領域から、最先端の知見を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「最新の脳科学的知見からこころの働きを理解する。」の到達度について、知識および能力を計るために、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントすることでフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。このため毎日1時間程度の、文献検索や文献詳読が必要となる。						
オフィスアワー	火曜3限、6号館4階6401研究室						
授業計画						担当者	
1. ストレス総論 2. ストレスの分子内分泌学 3. 抑うつ脳科学 4. 養育環境の脳科学（行動科学） 5. 養育環境の脳科学（分子生物学） 6. 不安・恐怖の脳科学 7. PTSDの病態 8. PTSDの新規治療法開発 9. 記憶の分類 10. 記憶形成の脳科学 11. エピジェネティクス（基礎編） 12. エピジェネティクス（臨床編） 13. 依存の脳科学 14. 向精神薬の薬理作用 15. 課題選択とグループ討論・発表						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	スライド原稿を資料として配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・ISBN1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	福祉分野に関する理論と支援の展開			担当者	藤原 直子、村上 勝典		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	【テーマ】社会福祉の視点にたち、乳幼児から高齢者まで、さまざまな困難や障害を抱えつつ生きていく人への心理的支援の方法を学習する。そして、医学的、心理的、教育的視点から総合的に眺め、社会福祉領域における心理的支援の理論的理解と実践的技術の理解を深める。 【到達目標】 ①福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 ②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について、さまざまな対象や領域への適用方法について学び、実際の心理的支援方法を習得する。 ③特に、発達障害、虐待、認知症に関する必要な支援方法を学び、実践に生かす理論と技法を習得する。						
授業概要	乳幼児から高齢者までの心理的問題や発達障害、虐待、認知症等に関する医学的知識や理論、具体的なアセスメントおよび支援技法について、教科書・文献を用いて学び、事例検討や演習も行う。 演習では、テーマに応じた文献の紹介、プレゼンテーションを分担し、ディスカッションを行う。また、習得した理論や技法を保護者や学校教員に伝授する方法も学び、実際の心理支援場面（ペアレント・トレーニング、乳幼児健診、地域における高齢者支援など）に参加して実践力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み、演習・発表（提出）課題、最終試験を総合的に評価する。 到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。 評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20%、演習・発表課題50%、最終試験30%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習・発表について、その都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	発表の担当者は、スライド、レジュメ、資料等を準備し、授業開始時間までに印刷して配布すること。 正規の授業時間以外に、外部機関における演習やそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、必ず出席すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習として、担当教員が指示するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。 福祉領域や発達障害に関連する学術論文や専門雑誌の検索・熟読、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。 予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日5限（研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 社会福祉の理念 3. 福祉現場における活動の基本 4. 福祉（乳幼児・児童）における心理アセスメント 5. 福祉（乳幼児・児童）における心理的支援 6. 虐待に関する知識・支援 7. 発達障害者福祉分野の活動・心理的支援 8. 発達障害児者に対する心理的支援 9. 社会福祉の制度・法律 10. 福祉分野の活動における倫理 11. 福祉（高齢者）における心理アセスメント 12. 福祉（高齢者）における心理的支援 13. 障害者福祉分野の活動・心理的支援 14. 認知症に関する知識・支援						1回：藤原、村上 2～8回：藤原 9～15回：村上 16回：藤原	

15. 高齢者福祉分野の活動・心理的支援			
16. まとめと試験			
教科書			
教・書籍名1	担当教員が随時指定する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	公認心理師分野別テキスト② 福祉分野	参・出版社名1	創元社
参・著者名1	片岡玲子・米田弘枝	参・I S B N 1	978-4-422-11692-1
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	教育分野に関する理論と支援の展開			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・学生発表
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	テーマ：教育心理学の学術論文の読解を通して学ぶ理論と支援と研究法 到達目標：論文の精読を通して、①教育心理学の研究法・データの分析法についての理解を深める、②批判的に読むことができる、③支援方法について考えることができる、の3点を到達目標とする。						
授業概要	「いじめ」の問題を扱った教育心理学的な研究論文の精読・解説を中心におこなう。理解が深まった時点で、当該研究論文について批判的に優れた点、問題点、改善点等を出し合い、さらにその応用と支援のあり方などについて討議する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）、発表内容・姿勢（40％）、および授業中に2回ほど行う小テスト（20％）により評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表内容、小テストについては、そのつどフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	心理統計についての理解が不足している人は、それなりの努力を有する。						
事前学習・事後学習とその時間	論文を読んで、不明箇所は、必ず調べておくこと。（2時間以上） 授業内容を振り返るとともに、課題に取り組むこと。（2時間以上）						
オフィスアワー	月曜日4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション いじめとは						森井	
2. 論文1 中高生のいじめ認識（概要紹介）						森井	
3. 論文1 // （研究法・応用性の検討）						森井	
4. 論文2 関係者の心理的ストレス（概要紹介）						森井	
5. 論文2 // （研究法・応用性の検討）						森井	
6. 論文3 いじめ防止プログラム（概要紹介）						森井	
7. 論文3 // （研究法・応用性の検討）						森井	
8. 論文4 加害者への対応（概要紹介）						森井	
9. 論文4 // （研究法・応用性の検討）						森井	
10. 論文5 学級の集団規範（概要紹介）						森井	
11. 論文5 // （研究法・応用性の検討）						森井	
12. 論文6 自尊感情、有能感との関係（概要紹介）						森井	
13. 論文6 // （研究法・応用性の検討）						森井	
14. 統計の基礎のおはなし						森井	
15. まとめ（研究と実践）						森井	
教科書							
教・書籍名1	使用しない。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	いじめ指導24の鉄則—うまくいかない指導には「わけ」がある				参・出版社名1	学事出版	
参・著者名1	吉田 順				参・I S B N 1	ISBN-13: 978-4761921651	
参・書籍名2	いじめとは何か—教室の問題、社会の問題				参・出版社名2	中公新書	
参・著者名2	森田 洋司				参・I S B N 2		

授業科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜4限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	【テーマ】 司法・犯罪分野におけるさまざまな社会的問題や心理的支援について学習する。そして、犯罪被害者・加害者および家族や支援者に対する心理的支援の理論と実践的技術の理解を深める。 【到達目標】 ①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件に関する法規および基本知識を習得する。 ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関するアセスメントや支援技法方法を学び、実践に生かすことができる。 ③保護・矯正施設において実施されている各種矯正プログラムについて学び、実施に必要な知識と技術を習得する。						
授業概要	犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基礎知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援、について、教科書・文献を用いて学び、事例検討や演習も行う。 演習では、テーマに応じた文献の紹介、プレゼンテーションを分担し、ディスカッションを行う。また、習得した理論や技法を犯罪被害者・加害者に適用する方法も学び、演習を行い、実践力を身につける。 さらに、司法・犯罪分野における心理職の実際を学ぶため、法務技官や科学捜査研究所（科捜研）職員の特別講義も聴講する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み、演習・発表（提出）課題、最終試験を総合的に評価する。 到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。 評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20%、演習・発表課題50%、最終試験30%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習・発表について、その都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	発表の担当者は、スライド、レジュメ、資料等を準備し、授業開始時間までに印刷して配布すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習として、担当教員が指示するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。 司法犯罪分野に関連する学術論文や専門雑誌の検索・熟読、関連法規やニュース記事にも関心をもって読むこと。 予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日5限（研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 司法・犯罪分野の制度・法律 3. 司法・犯罪分野における職種 4. 司法・犯罪分野での活動の倫理 5. 各機関における活動：警察、裁判所、鑑別所 6. 各機関における活動：少年院、刑務所、保護施設など 7. 犯罪・非行への心理的支援 8. 犯罪被害への心理的支援 9. 矯正教育における動機づけ面接 10. 矯正教育における動機づけ面接の実際（演習） 11. 科学捜査研究所における心理職の役割（外部講師） 12. 司法・犯罪分野における心理アセスメントの実際						全回：藤原直子 第11回：外部講師（岡山県警察本部科学捜査研究所）	

13. 司法・犯罪分野における心理的支援：処遇プログラム	
14. 司法・犯罪分野における心理的支援：認知行動療法	
15. 犯罪防止・予防のプログラム	
16. まとめ	

教科書

教・書籍名 1	各回の内容に応じて、随時指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開 集中			担当者	福崎 俊貴		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義および演習，討論
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義のテーマは職場における一次予防から三次予防のメンタルヘルス対策である。産業心理学の主要な概念を用いて、就労者のメンタルヘルスに関わる事象について心理学的に理解し、説明できるようになることを目標とする。						
授業概要	人が働くことに伴う様々な事象について、心理学的視点から理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク						
評価方法と割合	授業発表（60％），レポート提出およびレポートの内容（40％）により評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項							
事前学習・事後学習とその時間	事前に資料を配布しそれらをもとに授業を進める。提供資料の内容について事前学習（2時間）と講義内容に関する事後学習（2時間）を求める。						
オフィスアワー	特に定めない。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 職場のメンタルヘルスの歴史と現状 3. 産業精神保健制度 4. 職場におけるメンタルヘルス専門家の役割 5. 職業性ストレスモデル 6. ストレスチェック制度 7. ハラスメント 8. 働く人のメンタル不調の兆候について 9. 事例検討（メンタル不調の兆候） 10. 職場のメンタルヘルス（セルフケア） 11. 職場のメンタルヘルス（ラインケア） 12. 産業保健スタッフ等の他職種連携 13. 復職支援 14. 事例検討（復職支援） 15. 緊急支援および危機介入 16. レポート試験						1. 福崎俊貴 2. 福崎俊貴 3. 福崎俊貴 4. 福崎俊貴 5. 福崎俊貴 6. 福崎俊貴 7. 福崎俊貴 8. 福崎俊貴 9. 福崎俊貴 10. 福崎俊貴 11. 福崎俊貴 12. 福崎俊貴 13. 福崎俊貴 14. 福崎俊貴 15. 福崎俊貴 16. 福崎俊貴	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	ここが知りたい職場のメンタルヘルスケア: 精神医学の知識&精神医療との連携法				参・出版社名1	南山堂	
参・著者名1	日本産業精神保健学会				参・I S B N 1		
参・書籍名2	職場におけるメンタルヘルスのスペシャリストBOOK				参・出版社名2	培風館	
参・著者名2	川上憲人・堤明純				参・I S B N 2		

授業科目名	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践			担当者	津川 秀夫、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	対人関係および集団における人の意識や行動について、また家族の機能や家族内の関係が及ぼす影響について理解し、どのように関わっていくかについて、基礎知識の修得と関わり方の基本を身につけることを目標とする。						
授業概要	対人関係および集団における人の意識や行動、また家族の機能や家族内の関係が及ぼす影響について、基本的な知識を修得した上で、実際の関わり方を学ぶ。また、受講者の興味に応じて、実際のスキル・トレーニングを取り入れたり視覚教材を用いたりする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	担当箇所の発表(30%)、授業への参加態度(50%)、レポート(20%)により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う。						
履修条件・注意事項	心理的支援につながる知識と具体的スキルに焦点をあてた授業のため、心理的支援に関心のある者の受講を希望する。						
事前学習・事後学習とその時間	指定テキストをあらかじめ読んで授業に臨むこと。予習・復習にそれぞれ2時間を要する。						
オフィスアワー	津川：月曜4限（個人研究室） 宇都宮：火曜2限（個人研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 家族療法とブリーフセラピー 3. 合わせとずらし 4. リソース、例外 5. 解決像 6. スケーリング・クエスチョン 7. 事例（妄想） 8. 事例（DV） 9. 事例（指示されて来た場合） 10. ブリーフセラピーまとめ 11. 集団・組織の特徴 12. 集団に働きかけるコミュニケーション 13. SGEとは 14. SGEの計画 15. SGEの実践						津川 宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	認知行動療法とブリーフセラピーの接点				教・出版社名1	日本評論社	
教・著者名1	津川秀夫・大野裕史				教・I S B N 1	4535983925	
教・書籍名2	エンカウンター—心とこころのふれあい				教・出版社名2	誠信書房	
教・著者名2	國分 康孝				教・I S B N 2	978-4414403091	
参考書							
参・書籍名1	ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチ				参・出版社名1	遠見書房	
参・著者名1	日本ブリーフサイコセラピー学会				参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

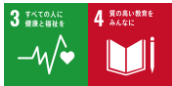
授業科目名	心の健康教育に関する理論と実践			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	【テーマ】 認知行動療法は、クライアントの不応状態に関連する行動・情動・認知の問題に対して、学習理論をはじめとする行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて介入を行う心理療法で、現代社会における「こころの健康教育」の中心的手法である。本講義では、「こころの健康教育」を実践するために必要な行動療法および認知行動療法の基礎となる理論や技法、心理的支援場面への適応方法を学ぶ。 【到達目標】 ①行動療法および認知行動療法の基本原理・主な技法、介入のすすめ方を理解できる ②さまざまな対象や領域への「こころの健康教育」の理論と技法について学び、実際の現場において活用できるようになる。 ③特に、児童・生徒への心理教育（ストレスマネジメント）、発達障害児の保護者へのペアレント・トレーニング、うつ病患者への認知行動療法を実施できる実践力を習得する。						
授業概要	背景となる理論、具体的なアセスメントおよび介入技法等について、教科書・文献を用いて学び、事例検討や演習も行う。 演習では、テーマに応じた文献の紹介、プレゼンテーションを分担し、ディスカッションを行う。また、理論や技法を活用する方法を学んだ後、実際に心理教育プログラムを実施して実践力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み、演習・発表（提出）課題、最終試験を総合的に評価する。 到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。 評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20％、演習・発表課題50％、最終試験30％とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習・発表について、その都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	発表の担当者は、スライド、レジュメ、資料等を準備し、授業開始時間までに印刷して配布すること。 正規の授業時間以外に、心理教育プログラムへの参加やそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、積極的に参加すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習として、担当教員が指示するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。 認知行動療法や心理教育に関連する書籍や学術論文の検索・熟読、関連法規の閲覧、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。 予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日4限（研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 心の健康教育の対象と領域 3. 認知行動療法を用いた心理教育の理論：行動理論 4. 認知行動療法を用いた心理教育の理論：応用行動分析 5. 認知行動療法を用いた心理教育の理論：認知再構成法 6. 保護者に対する「ペアレント・トレーニング」 7. ペアレント・トレーニングの理論と技法 8. ペアレント・トレーニングの実践 9. 児童・生徒に対する心理教育 10. 心理教育（ストレスマネジメント）に用いる理論と技法 11. 心理教育（ストレスマネジメント）の実践						全回：藤原直子	

12. 防煙教育・禁煙支援	
13. 禁煙支援プログラムの実践	
14. うつ病に対する認知行動療法	
15. うつ病に対する治療プログラム	
16. まとめ	

教科書			
教・書籍名 1	各回の内容に応じて、随時指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	心理実践実習Ⅰ				担当者	津川 秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原 直子、土居 正人、村上 勝典、宇都宮 真輝			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年				ナンバリング				
必修・選択	必修	単位数	4単位		時間数	30	授業形態	実習	
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習	
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に   								
到達目標	【公認心理師必修科目】 本実習は、福祉分野の施設において、心理臨床の現場理解およびチームでの心理支援の理解を深めることをテーマとし、以下の事項について基本的な水準の知識および技能の修得を到達目標とする。 (1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得について、実際に心理支援を担当し、指導を受ける。 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 等 (2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について、振り返りのミーティング等で理解を深める。 (3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、集団療法等から理解を深める。 (4) 多職種連携及び地域連携の実際を体験的に学ぶ。 (5) 職業倫理及び法的義務について実際に学ぶ。								
授業概要	福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野の学外実習施設において、見学だけでなく、心理支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受け、公認心理師に必要な技術や心得を修得する。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／実習								
評価方法と割合	実習日誌の記録・実習報告・課題等の取り組み(30%)、学外実習における態度・実習内容・実習指導担当者からの評価（70%）による総合的評価をおこなう。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	実習報告や課題のフィードバックは授業時間内に行う。								
履修条件・注意事項	福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の4分野のうち2分野以上の参加を原則とする。 臨床現場での実習であるため、実習施設のルールおよび指導に従うこと。ルールや指導に従わず臨床現場の秩序を乱す、要支援者やその家族等に迷惑をかけるといった行為があった場合は、その場で実習中止を申し渡すことがある。 各自の実習報告やレポートは、指定された期日までに実習先指導者や実習指導教員に提出すること。								
事前学習・事後学習とその時間	実習先や実習分野、支援対象者について事前に学習し、基本的な面接技法、心理療法について復習しておく。実習指導を学外実習指導担当者や実習担当教員から受け、事前・事後学習を行うこと。復習や事前・事後学習は毎回1・2時間程度を要する。								
オフィスアワー	津川（月曜日4限） 藤原（月曜日4限） 土居（月曜日2限） 宇都宮（水曜日3限） 村上（木曜日3限）								
授業計画							担当者		
教科書									
教・書籍名1	特に指定しない					教・出版社名1			
教・著者名1						教・I S B N 1			
教・書籍名2						教・出版社名2			
教・著者名2						教・I S B N 2			
参考書									
参・書籍名1						参・出版社名1			

参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	実験心理学特論			担当者	橋本 翠、三宅 俊治、森井 康幸、栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：心的活動を客観的に捉える実験的方法を修得することができる。 到達目標：実験計画(変数の設定, 条件操作の方法等)の立て方, および実験器具の操作法について, これまでの先行研究を概観し議論しながら自身で遂行できるようになる。						
授業概要	ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験の手法を学ぶために, これまでの先行研究を概観し, 基礎から応用までの幅広く心理学実験の概要を理解する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	レポート(70%), 受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポート（再提出も含む）を全て提出しなければ, その期の単位は認定不可とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートに不備がある場合は返却し, フィードバックを行う。そして再提出をすること。						
履修条件・注意事項	無断で欠席をした場合は, 当該課題は不可となることがあるので十分気を付けること。病気などで欠席をする際は, 欠席願・診断書等を必ず提出すること。						
事前学習・事後学習とその時間	各課題の内容をしっかりと把握する意味でも予習・復習・レポート作成（合計4時間以上）をしっかりと行うこと。						
オフィスアワー	各実験担当の教員に聞くこと。 橋本：月曜5限：研究室						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション 2.視覚認知をどのようにとらえるか 3.視覚認知の基礎過程 4.パターン認知の諸問題 5.対象の視覚表現 6.シーンの認知 7.他の認知過程との関連 8.意味記憶 9.文章理解 10.画像記憶 11.日常生活の中の記憶 12.注意と情報処理 13.大脳半球機能差と認知 14.イメージの精神生理学 15.まとめ 16.単位認定試験						1-4回：橋本 5-8回：栗田 9-12回：森井 13-15回：三宅 16回：橋本	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	認知心理学重要研究集1				参・出版社名1	誠心書房	

参・著者名1	齋藤勇 監修・行場次郎 編	参・ I S B N 1	4-414-32393-2
参・書籍名2	認知心理学重要研究集2	参・出版社名2	誠心書房
参・著者名2	齋藤勇 監修・箱田裕司 編	参・ I S B N 2	4-414-32394-0

授業科目名	認知心理学特論			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	【テーマ】 人間が環境に適応するための認知情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について理解する。 【到達目標】 認知心理学領域における最新の研究テーマを概観しながら、情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について修得する。						
授業概要	本講では、認知心理学領域で扱われている最新のテーマを概観しながら、他心理学領域との関連性についても言及するとともに、人間の認知機能が日常生活のなかで、どのように働いているのかという日常認知の問題についても考える。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	学修態度（減点法）、ディスカッションへの参加度(minutes paper含む)40％、反転授業の得点60％の合計点により総合的に評価する。 なお、欠席については総合点より回数分減点します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や質問等については授業開始前に返却しフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	修士課程の講義に値する積極的な取組みを期待する。発表担当者は、レジュメを作成し発表に臨むこと。半期の講義内で当該領域の興味がある内容についての実験を1つ行う。 遅刻は禁じます。						
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回、次の講義内容について指示をするので、関連書籍を読み、各回の内容について学習すること。復習については、授業時に配布する資料を読み、関連書籍と併せて内容を理解し、身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
(1)OR/認知心理学とは-誕生 (2) 認知心理学-変貌 (3) 知覚の基礎-知覚の世界 (4) 知覚の基礎-ミッドレベル・ビジョン (5) 高次の知覚と注意-2次元の認知 (6) 高次の知覚と注意-3次元の認知 (7) 表象-アナログ表象 (8) 表象-スキーマ (9) 記憶-記憶の基礎 (10) 記憶-記憶研究の新展開 (11) 言語-言語体系の機能と構造 (12) 言語-脳と言語処理 (13) 問題解決と推論-問題解決 (14) 問題解決と推論-推論 (15) 問題解決と推論-思考 (16) 単位認定ディスカッション						橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本	
教科書							
教・書籍名1	認知心理学 知のアーキテクチャを探る				教・出版社名1	有斐閣アルマ	
教・著者名1	道又・北崎・大久保・今井・山川・黒沢(著)				教・I S B N 1	4-641-12167-2	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	学習心理学特論			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の基本的メカニズムの検討 到達目標：「行動」は「こころ」の働きをも含む人間活動の土台であり、行動についての知識は、様々な人間の活動を包括的に理解するためには必要欠くべからざるものという観点から、行動を統一的に理解するための基礎知識と、レスポナント行動とオペラント行動という2種類の行動についての理解を深め、人間行動をこれらの基本的メカニズムでどこまで説明できるか考えられるようになることを到達目標とする。						
授業概要	人間の行動理解の前提となる「身体」、「こころ」、「行動」、「環境」などに関する基礎的な知識を基盤として、レスポナント条件づけとオペラント条件づけについて詳細にみていく。 適宜、形成的評価のための小テストを行う。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）、発表・レポート（50％）、小テスト（10％）で評価する。 発表内容、小テストについては、そのつどフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内での発表についてはその都度、質疑等の中でフィードバックを与える。 小テスト等については、次回の授業時に返却・解説する。						
履修条件・注意事項	評価は厳格に行うので、履修に当たってはそれなりの覚悟が必要である。						
事前学習・事後学習とその時間	予習：テキスト該当箇所は当然として、参考書籍も読んでおくこと。（2時間以上） 復習：参考書籍を中心に理解を深めるとともに、日常の具体例を考えること。（2時間以上）						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
講義 1. オリエンテーション 2. 学習と行動に関する基礎知識（こころ、身体、行動） 3. 学習と行動に関する基礎知識（行動と環境） 4. レスポナント条件づけの基礎 5. レスポナント条件づけの諸現象 6. レスポナント条件づけの新しい考え方 7. オペラント条件づけの基礎 8. 行動の獲得と消去 9. 強化スケジュール 10. 逃避行動と回避行動 11. オペラント条件づけにおける刺激性制御 12. 言語行動 13. 選択行動 14. 迷信行動 15. 社会的行動・まとめAL						森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書							
教・書籍名1	行動の基礎 豊かな人間理解のために 改訂版				教・出版社名1	培風館	
教・著者名1	小野 浩一				教・ISBN1	978-4563052478	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名 1	メイザーの学習と行動 日本語版第3版	参・出版社名 1	二瓶社
参・著者名 1	ジェームズ・E. メイザー	参・ I S B N 1	978-4861080456
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	心理統計法特論			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任 						
到達目標	【テーマ】心理学研究に欠かせない様々な統計的手法をプログラミング言語であるRを用いて実施する。 【到達目標】心理学研究に必要な種々の統計的分析がRを用いて使えるようになる。						
授業概要	【概要】心理学研究に必要な統計的分析をRを用いて実施できるよう、実際にPCを使いながら学修する。実際に研究で使用しているデータをRを使って分析しながら学んでいく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	毎回の講義の課題(50%), 受講態度(10%), レポート試験(40%)とする。欠席については減点方式をとる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は、各講義内で実施する課題を行い提出する。課題についてのフィードバックは、講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	大学院博士(前期)課程の科目であり、プログラム言語を用いて実施する応用となるため、学部の心理統計の知識は修得できていることを履修条件とする。この科目では心理統計に関する基礎的な講義は行わないので注意すること。 この科目ではプログラム言語Rを用いるため、基本的なプログラム言語は理解できていること。講義ではPCを用いるので必ずPCを持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習は次の講義内容についてテキストをしっかりと熟読し(2時間)、復習は講義でやった内容について各自でPCを動かして再度やってみること(2時間)。						
オフィスアワー	月曜5コマ(橋本研究室)						
授業計画						担当者	
1.OR 2.Rと統計学 3.1つの変数の記述統計 4.2つの変数の記述統計 5.母集団と標本 6.統計的仮設検定 7.2つの平均値を比較する 8.分散分析 9.データフレーム 10.外れ値が相関係数に及ぼす影響 11.統計解析でわかること・わからないこと 12.プリ・ポストデザインデータの分析 14.人工データの発生 15.検定の多重性と第1種の誤りの確率 16.レポート試験						橋本翠(第1回～第16回)	
教科書							
教・書籍名1	Rによるやさしい統計学				教・出版社名1	オーム社/開発局	
教・著者名1	山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎				教・I S B N 1	978-4-274-06710-5	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	感情心理学特論			担当者	村上 勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／ 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	感情の生理的基盤および古典的理論、感情が行動と認知に及ぼす影響、感情障害とその支援について理解できることをテーマとする。 感情の理論および感情障害とその支援を説明できることを到達目標とする。						
授業概要	情動末梢起源説、二要因説などの古典的理論や現代の理論についてのレジュメ作成、感情が行動に及ぼす影響や感情障害とその支援についてのレジュメを作成し、その発表や演習をおこなう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内の発表に対する取り組み（50％）と試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックをおこなう。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 担当箇所のレポートを毎回欠かさず提出し、それを発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						村上	
2. 感情の生起の概要						村上	
3. 感情の生起に関する理論						村上	
4. 基本的感情説						村上	
5. 次元説						村上	
6. 感情と脳の仕組み						村上	
7. 感情と行動						村上	
8. 感情と認知						村上	
9. 感情障害の概要						村上	
10. うつ病						村上	
11. アレキシサイミア						村上	
12. 自閉スペクトラム						村上	
13. 感情障害に関する心理学的理論						村上	
14. 感情障害に対する支援						村上	
15. まとめ						村上	
16. 定期試験						村上	
教科書							
教・書籍名 1	感情とはそもそも何なのか―現代科学で読み解く感情のしくみと障害―				教・出版社名 1	ミネルヴァ書房	
教・著者名 1	乾敏郎				教・I S B N 1	978-4-623-08372-5	
教・書籍名 2					教・出版社名 2		
教・著者名 2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名 1					参・出版社名 1		
参・著者名 1					参・I S B N 1		
参・書籍名 2					参・出版社名 2		
参・著者名 2					参・I S B N 2		

授業科目名	生理心理学特論			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	【テーマ】 人間が環境に適応するための「こころ」を理解する。 【到達目標】 認知生理心理学領域の最新のテーマを概観しながら、「こころ」を理解しようとするさまざまな研究アプローチを修得する。						
授業概要	本講では、認知生理心理学領域で扱われている最新のテーマを概観しながら、他心理学領域との関連性についても言及するとともに、人間の認知機能が日常生活のなかで、どのように働いているのかという日常認知の問題についても考える。						
アクティブラーニングの内容	反転授業						
評価方法と割合	学修態度（減点法）、ディスカッションへの参加度(minutes paper含む)40%、反転授業の得点60%の合計点により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や質問等についてのフィードバックは、講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	修士課程の学修に相応しい積極的な取組みを期待する。発表担当者は、毎回レジュメを作成し発表してもらう。また、半期の講義内で興味のある生理心理学の実験を最低1つは行ってもらう。						
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回、次の講義内容について指示をするので、関連書籍を読み、各回の内容について2時間学習すること。復習については、授業時に配布する資料を読み、関連書籍と併せて内容を理解し、身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げることにつき2時間行うこと。minutes paperについては授業開始前に返却しフィードバックを行う。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
(1)OR/生理心理学の歴史						橋本	
(2) 脳科学としての生理心理学研究法						橋本	
(3) 脳への操作による心理・行動研究						橋本	
(4) 脳の直接的操作						橋本	
(5) 脳の行動の遺伝子操作						橋本	
(6) 動物を用いた脳の組織学的研究法						橋本	
(7) 中枢活動Ⅰ：脳波						橋本	
(8) 中枢活動Ⅱ：脳イメージングの技法						橋本	
(9) 心臓循環器系						橋本	
(10) 呼吸活動						橋本	
(11) 温熱系						橋本	
(12) 視覚－運動系						橋本	
(13) 骨格筋系						橋本	
(14) 生化学的指標						橋本	
(15) まとめ						橋本	
(16) レポート試験						橋本	
教科書							
教・書籍名1	生理心理学と精神生理学 第Ⅰ巻 基礎				教・出版社名1	北大路書房	
教・著者名1	堀忠雄・尾崎久記(監修) 坂田省吾・山田富美雄(編)				教・I S B N 1	978-4-7628-2972-7	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	社会心理学特論			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜4限
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	社会心理学は、人間と社会の相互作用を通じて、双方に様々な影響を与える「社会的行動」を研究対象とし、その基底に存在する法則性を解明することを目的としている。本論の受講により、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、人間の「社会的行動」を科学的に理解する様々な研究アプローチについて学び、人の心と社会との関係をダイナミックに理解することができる。						
授業概要	本特論では、社会の変遷とともに「社会的行動」の法則性がどのように理解されてきたのか、史的レビューを行うとともに、それらの知見が今日の現実の社会問題の解決や人々の幸福達成にいかに関与しているのかについて論じる。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	事前学習と発表課題へ取り組む態度(50%)、発表後のまとめとレポート(50%)とし、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表後のまとめとレポートについては、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	毎回文献通読課題を出すので、次回までに熟読し、内容の紹介と考察ができるよう準備しておくこと。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
1. 社会心理学の成立 2. 社会心理学の成立と展開 3. 社会心理学研究における基本概念(個人) 4. 社会心理学研究における基本概念(集団) 5. 社会心理学における重要研究レビュー(基礎) 6. 社会心理学における重要研究レビュー(個人) 7. 社会心理学における重要研究レビュー(集団) 8. 社会心理学における重要研究レビュー(応用) 9. 社会心理学の今日的テーマと研究アプローチ(個人) 10. 社会心理学の今日的テーマと研究アプローチ(集団) 11. 社会心理学の今日的テーマと基礎的研究アプローチ 12. 社会心理学の今日的テーマと応用的研究アプローチ 13. 社会心理学研究における学際的アプローチ(社会学) 14. 社会心理学研究における学際的アプローチ(文化人類学) 15. 社会心理学研究の課題						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回講義時に授業用資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名 1	社会心理学研究案内	参・出版社名 1	ナカニシヤ出版
参・著者名 1	三井宏隆他	参・ I S B N 1	4-88848-702-2
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	健康心理学特論			担当者	村上 勝典		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	健康関連行動に関する理論モデルおよびストレスに関連するモデルやアセスメント、支援方法を理解できることが、この授業のテーマである。 到達目標は、健康関連行動およびストレスについての基礎的な内容を理解し、セルフマネジメントや支援に活かすことができるようになることである。						
授業概要	健康やストレスに関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや支援方法などについてのレジュームを作成し、その発表や演習をおこなう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内の発表に対する取り組みや定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、発表に対する取り組み（50%）と試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックをおこなう。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 担当箇所のレポートを毎回欠かさず提出し、それを発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						村上	
2. 健康心理学とは						村上	
3. 健康心理学の研究法						村上	
4. 健康関連行動とは						村上	
5. 健康関連行動のモデル（1）：健康信念モデル						村上	
6. 健康関連行動のモデル（2）：計画的行動理論						村上	
7. 健康とパーソナリティ						村上	
8. ストレスとは						村上	
9. ストレスのモデル						村上	
10. ストレッサーの測定						村上	
11. ストレス症状の測定						村上	
12. ストレスコーピング						村上	
13. ストレスコーピングの測定						村上	
14. ソーシャルサポートとは						村上	
15. ソーシャルサポートと健康						村上	
16. 定期試験						村上	
教科書							
教・書籍名1	保健と健康の心理学				教・出版社名1	ナカニシヤ出版	
教・著者名1	大竹恵子（編）				教・I S B N 1	978-4-7795-1112-7	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	老人心理学特論			担当者	村上 勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／ 4. 質の高い教育をみんなに／ 11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	日本は超高齢社会であり、平均寿命も世界トップクラスである。それゆえ、健康やサクセスフルエイジングは高齢期における課題の1つである。また、加齢に伴い、認知症の有病率も高くなることから、認知症の予防も関心事の1つとなり得る。本講義のテーマは、これらの問題に対する心理学的な知識やアプローチを知ることである。 到達目標は、高齢者の生活の質を高めるために、高齢期に関する心理学的な知識を習得することである。						
授業概要	高齢期に関連する心理学的な知見、老年心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについてのレジュメを作成し、その発表や演習をおこなう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内の発表に対する取り組みや定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、発表に対する取り組み（50%）と試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックをおこなう。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 担当箇所のレポートを毎回欠かさず提出し、それを発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						村上	
2. 高齢者の特徴						村上	
3. 高齢者の身体活動と健康						村上	
4. 高齢者の身体活動に対する心理的支援						村上	
5. 高齢者の食生活と健康						村上	
6. 高齢者の食生活に対する心理的支援						村上	
7. サクセスフルエイジング（1）：医学的な考え方						村上	
8. サクセスフルエイジング（2）：心理学的な考え方						村上	
9. 高齢者の閉じこもり						村上	
10. 高齢者のうつ病						村上	
11. 認知症とは						村上	
12. 軽度認知障害とは						村上	
13. 認知症のアセスメント						村上	
14. 認知症に対する心理的支援						村上	
15. 認知症の予防						村上	
16. 定期試験						村上	
教科書							
教・書籍名1	超高齢社会を生きる一老いに寄り添う心理学				教・出版社名1	誠信書房	
教・著者名1	長田久雄・箱田裕司（編）				教・I S B N 1	978-4-414-31118-1	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	生涯発達心理学特論			担当者	三宅 俊治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	生涯発達過程における人格の向上・成長志向性について、「中年期」の意味を検討するのがテーマである。文献的理解とデータに関する考察を重点的に行う。それぞれ6割の水準以上、達成することを到達目的とする。						
授業概要	生涯発達過程における人格の向上・成長志向性について検討する。発達段階や世代性に関して「中年期」の意味は、如何なるものであるのか。理論やそれを実証するためのデータあるいは文献を吟味し、生涯にわたる人間的成長とは何か、を考察する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験(60%)、課題やレポート(40%)。提出されたレポート課題に対するコメント、フィード・バックは提出時、もしくは翌週、行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出した後、次回の授業で解説を行う。						
履修条件・注意事項	授業参加者は、割り当てられた担当部分をレポートし、説明する。テキストに記されている事項以外の関連領域の所見を積極的に紹介し、主体的に授業にかかわる義務を負う。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること。						
オフィスアワー	日時：毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。						
授業計画						担当者	
1. orientation 2. 生涯発達論 3. Erikson,E.H. について 4. 中年期の発達課題 5. 中年期成人と世代性 6. Jung,C.G. と個性化 7. Levinson,D.J. とライフサイクルの心理学 8. McAdams,D.P. と世代性 9. 成人の発達モデルと中年期 10. ライフイベント論と中年期 11. 精神分析、精神医学と世代性 12. 世代性の発達と自己概念 13. 世代性尺度について 14. 世代性行動チェックリストについて 15. 世代性研究の課題 16. 定期試験						1. 三宅俊治 2. 三宅俊治 3. 三宅俊治 4. 三宅俊治 5. 三宅俊治 6. 三宅俊治 7. 三宅俊治 8. 三宅俊治 9. 三宅俊治 10. 三宅俊治 11. 三宅俊治 12. 三宅俊治 13. 三宅俊治 14. 三宅俊治 15. 三宅俊治 16. 三宅俊治	
教科書							
教・書籍名1	成人の心理学 – 世代性と人格的成熟 –				教・出版社名1	ナカニシヤ出版	
教・著者名1	丸島 令子				教・I S B N 1	ISBN978-4-7795-0400-6	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	人格心理学特論			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	【テーマ】性格（人格）心理学の研究上の疑問から研究課題を見つけ出すこと。 【到達目標】パーソナリティ研究の論文を輪読し、まだ明らかになっていない研究課題が見出せるようになる。研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理思考力、表現力等を学び、研究論文としてまとめることのできる力を身につけることができる。						
授業概要	本講義では、論文におけるレジュメの作成と発表を通して、様々な観点（臨床心理学的側面、文化的側面、発達の側面など）から「性格（人格）」を捉え、現在どのようなことがわかっているのか、いないのか学修する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	レポート試験(50%)および講義中の質疑応答、受講態度や各授業における課題(50%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は毎回、テーマに沿って論文要約を作成し、発表することである。それに加えて、調査データの打ち込み練習、分析練習等の課題がある。フィードバックは、論文要約、分析課題に対して行う。						
履修条件・注意事項	論文要約は毎回あるので、すぐに論文要約ができる準備をしておくこと。論文の検索方法及び取り寄せ方、要約の仕方、引用の方法を調べてくること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、論文要約をしてくること。講義後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. パーソナリティ（人格）とは 3. 類型論について 4. 特性論について 5. パーソナリティの尺度化 6. 尺度構成法：信頼性 7. 尺度構成法：基準関連妥当性 8. 尺度構成法：構成概念妥当性 9. 境界性パーソナリティー障害 10. 強迫性パーソナリティー障害 11. 感情調節障害 12. 人格検査（歴史） 13. 人格検査（実施） 14. 人格検査（分析） 15. 人格検査（解釈） 認定レポート						土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居	
教科書							
教・書籍名 1	必要に応じてプリント配布、板書を行う。				教・出版社名 1		
教・著者名 1					教・I S B N 1		
教・書籍名 2					教・出版社名 2		
教・著者名 2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名 1	心理学 新版				参・出版社名 1	有斐閣	
参・著者名 1	無藤隆、森敏昭				参・I S B N 1	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861	

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	異常心理学特論			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜5限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	【テーマ】 非行・犯罪行動といった正常から著しく異なる行動の背景にある心理的な状態や環境要因、異常な状態と関連する精神障害について学習する。また、非行・犯罪に関する法規やさまざまな社会的問題、科学的捜査や心理的支援についても学び、理解を深める。 【到達目標】 ①非行・犯罪といった異常な行動の心理状態に関する基礎的な知識や法規を習得する。 ②人格障害や行動障害の概念・特徴・病理・診断・処遇について理解する。 ③矯正施設や科学捜査研究所等の心理職について、職務内容や基礎的な知識を理解する。						
授業概要	犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基礎知識、司法・犯罪分野に関する法規や科学的捜査について、テキスト・文献を用いて学び、事例に関する演習やディスカッションも行う。 さらに、司法・犯罪分野における心理に関する職務の実際を学ぶため、少年院法務技官や科学捜査研究所（科捜研）研究員の講義聴講も行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み、演習・発表（提出）課題、最終試験を総合的に評価する。 到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。 評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20%、演習・発表課題50%、最終試験30%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習・発表について、その都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	発表の担当者は、スライド、レジュメ、資料等を準備し、授業開始時間までに印刷して配布すること。 正規の授業時間以外に、外部機関における演習やそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、必ず出席すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習として、担当教員が指示するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。 犯罪心理学や事件に関連する学術論文や専門雑誌、ニュース記事の検索・熟読、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。 予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日5限（研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 異常行動と心理 3. 非行・犯罪のタイプと背景 4. 非行・犯罪に関連する法規 5. 非行・犯罪に関する施設や職務：裁判所、鑑別所など 6. 非行・犯罪に関する施設や職務：少年院、刑務所、保護施設など 7. 異常行動と関連する精神障害 8. 精神障害の特徴・処遇 9. 非行・犯罪に関する施設や職務：警察など 10. 科学捜査に生かす心理学 11. 科学捜査研究所における心理職の役割（外部講師） 12. 異常行動と関連する人格障害 13. 人格障害の特徴・処遇 14. 異常行動と関連する行動障害						全回：藤原直子 第11回：外部講師（岡山県警察本部科学捜査研究所）	

15. 行動障害の特徴・処遇	
16. まとめ、試験	

教科書

教・書籍名 1	各回の内容に応じて、随時指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	高次脳機能特論 集中B			担当者	田尻 直輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	学位授与方針(1)に関連し、教育過程の編成・実施方針に記載されている医学関連科目である。高次脳機能という言葉に厳密な定義はないが、大脳皮質における各種感覚情報の認知・感情の発現、思考・判断を経て運動（行動）に至る過程がそれに当たると考えられている。その基礎に意識、記憶、知能などがあるが、これらの過程が障害されてしまうと、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの高次脳機能障害が出現し、日常生活や社会生活が制限されてしまう。この講義では、脳・神経系の解剖学と生理学を基盤とし、脳神経の仕組みや機能、その障害について解説を行っていく。到達目標は、脳・神経系機能の包括的な理解と応用である。その中で研究方法論の習得も目指す。						
授業概要	臨床・研究・教育現場で、約17年以上、解剖生理学、脳神経科学、高次脳機能障害学、リハビリテーション科学に特化した実務経験を持っている。その経験をもとに、精力的に学生指導に当たる。脳とところは、非常に密接な関係があり、そこから付随する疾患は多岐にわたる。こころの理解を深めていくためには、まず脳の構造や機能を十分に理解する必要がある。まずはじめに、脳・神経系の解剖学と生理学の概略を説明する。その後、大脳皮質の機能を中心とした講義を行い、その上で種々の高次脳機能及びその障害を必要に応じて最新の論文をもとに検討する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	成績評価は、講義毎に行う口頭試問による理解度、論文抄読の内容やレポート課題による試験と受講態度を総合して行う。本講義では、参加型学習を主体としているため、積極的な発言や応答を求める。評価方法については、討論への参加状況や応答及び対話における理解度などを参考にする。また課題や論文に対する知識力・理解力・考察力も重視するので、そのつもりで講義に臨むこと。詳細な評価方法は、最初のオリエンテーション時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	電子メールにて、やりとりを行う。						
履修条件・注意事項	必要プリントは、あらかじめ講義毎に予習・復習ができるように配布する。本講義では、脳・神経系の解剖学と生理学の基礎知識が必要である。まずはじめに、高次脳機能を理解するために必要な解剖学と生理学の基本的な概略を説明する。専門用語などが数多く出てくるので、講義期間内でしっかりと自己学修をし、不明な点があれば、随時積極的に質問してほしい。						
事前学習・事後学習とその時間	上記に記載した履修条件・注意事項を参考にすること。講義で配布したプリントや参考書を参考にして、必ず予習・復習をしておくこと。予習・復習には各2時間程度を要する。 また、教科書は使用しない（講義毎にプリントを配布する）。配布資料の中で、参考になっている教科書を下記に記載しておく。						
オフィスアワー	講義の合間・終了後に実施する。 電子メールでも対応する。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション講義						田尻	
2. 脳・神経の仕組み（概略Ⅰ）						田尻	
3. 脳・神経の仕組み（概略Ⅱ）						田尻	
4. 脳・神経の仕組み（概略Ⅲ）						田尻	
5. 運動制御（Ⅰ）						田尻	
6. 運動制御（Ⅱ）						田尻	
7. 運動制御（Ⅲ）						田尻	
8. 高次脳機能総論						田尻	
9. 意識とその障害						田尻	
10. 記憶とその障害						田尻	
11. 知能とその障害						田尻	

12. 言語とその障害	田尻
13. 失読と失書・失行と失認	田尻
14. 高次脳機能障害の生活実態	田尻
15. 高次脳機能障害の生活支援	田尻
16. 単位認定試験（課題試験）	田尻

教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	神経科学－脳の探求－	参・出版社名 1	西村書店
参・著者名 1	加藤宏司	参・ I S B N 1	978-4-89013-356-7
参・書籍名 2	全部見える　スーパービジュアル　脳・神経疾患	参・出版社名2	成美堂出版
参・著者名2	服部光男	参・ I S B N 2	978-4-415-31849-3

心理学研究科 博士(前期)課程
2019～2021 年度入学生

授業科目名	心理学研究法特論			担当者	三宅 俊治		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学研究を実際に行う際の理念・概念の明確化に至る思考、研究過程における問題の解決がテーマである。先行研究の概観と問題点の発見、その問題に見合ったデータ収集、方法の立案、結果の記述、データ分析・結果の表示・考察等々の方法論一般を理解できる。到達目標は、観察・実験・調査等々の具体的理解によって、修士論文の研究計画が考案できる水準に達することである。						
授業概要	研究を進めていく際の、問題の所在・目的・方法・結果・考察などの一連の論理性や整合性に注意を払ってテキストを読み解く。具体的には、意識や行動を分析する際、実験、調査、観察、検査などの狭義の方法論について、その特徴や問題点を客観的な視点から、受講者相互間で議論する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	授業期間中のレポート課題40点、筆記試験60点、合計100点。なお、レポート課題については、受講者相互がその内容について議論することをもって、フィードバックとする。なお、レポート課題評価の一環として小テストを数回行い、その得点をレポート課題40点の中に組み込む。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に解説を行う。						
履修条件・注意事項	授業参加者は、割り当てられた担当部分をレポートし、説明する。テキストに記されている事項以外の関連領域の所見を積極的に紹介し、主体的に授業にかかわる義務を負う。『Progress & Application 心理学研究法』をテキストとして用い、その中の観察法、調査法、実験法の順に、授業参加者が分担して受け持ち区分について、テキスト内容の紹介する。また、テキストの内容だけでなく、他の関連著書や参考文献などを担当者が独自に調べ、説明する。説明に当たっては、パワーポイントを使用し、プレゼンテーション経験を蓄積し、その向上に努める。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。						
オフィスアワー	日時：毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）						
授業計画						担当者	
1. orientation 2. 科学としての心理学 3. 心理学研究法の分類 4. 観察法の概要 5. 観察法を用いた研究の進め方 6. 観察法による具体的研究例 7. 観察データの信頼性と妥当性 8. 調査法の概要 9. 相関・共変・因果関係 10. 調査項目の作成 11. 心理尺度 12. 心理実験とは 13. 実際の実験例 14. 実験変数について 15. 実験デザイン 16. 定期試験						1. 三宅俊治 2. 三宅俊治 3. 三宅俊治 4. 三宅俊治 5. 三宅俊治 6. 三宅俊治 7. 三宅俊治 8. 三宅俊治 9. 三宅俊治 10. 三宅俊治 11. 三宅俊治 12. 三宅俊治 13. 三宅俊治 14. 三宅俊治 15. 三宅俊治 16. 三宅俊治	
教科書							
教・書籍名 1	Progress & Application 心理学研究法 第2 版				教・出版社名 1	サイエンス社	
教・著者名 1	村井潤一郎（編著）				教・I S B N 1	ISBN978-4-7819-1509-	

			8 C-3311
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	心理学研究法（公認心理師スタンダードテキストシリーズ4）	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	三浦麻子・小島康生・平井 啓（編著）	参・ I S B N 1	ISBN978-4-623-08614-6 C3311
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。 本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができる。						
授業概要	関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(30%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③研究の進捗状況報告(40%)から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	文献収集と内容理解への努力、研究の進捗状況報告については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回 研究倫理に関する理解・研究計画についての理解 第2回 研究計画内容の検討 第3回 文献研究の方法について 第4回 文献に関する検討(1) 先行研究の紹介 第5回 文献に関する検討(2) 先行研究のまとめ 第6回 文献に関する検討(3) ディスカッション 第7回 研究方法論に関する考察(1) 研究倫理 第8回 研究方法論に関する考察(2) データの収集法 第9回 研究方法論に関する考察(3) データの扱い方 第10回 研究方法論に関する考察(4) 分析の進め方 第11回 研究方法論に関する考察(5) 考察の進め方 第12回 発表の方法(1) 研究概要について 第13回 発表の方法(2) プレゼンテーション技法 第14回 課題の整理と展望 第15回 まとめ						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回授業時に資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名 1	大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方	参・出版社名 1	ナカニシヤ出版
参・著者名 1	吉田健正	参・ I S B N 1	4-88848-868-1
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ：代表的精神障害の診断と症状評価を理解する。 到達目標：大学院の学生が、精神科医療機関を訪れた患者さんの問診時に、適切な精神症状の評価に基づく精神医学的診断が出来るようになることを目標とする。						
授業概要	精神障害の診断に世界的に使用されているDSM-V或はICD-10 or 11に基づいた、適正な診断が出来るようになるために必要な精神医学的知識を学ぶ。多くの精神疾患には、それぞれの病状の重症度を評価するための症状評価尺度が開発されており、代表的な症状評価尺度が適正に使えるよう精神症状論を学ぶ。講義中に用いたスライドを、プリントして配布する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「代表的精神障害の診断と症状評価を理解する。」の到達度について、知識および能力を計るために、授業での発表を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、復習を1時間程度行う。						
オフィスアワー	木曜日2限目、6号館4F6401研究室						
授業計画						担当者	
1. 精神医学の歴史・精神科の診断基準 2. 研究倫理に準拠した責任ある研究活動 3. 精神医学総論（症状評価・治療法） 4. 精神医学に必要な検査（脳構造と脳機能の検査） 5. 精神医学に必要な検査（心理検査） 6. 精神発達 7. 治療者－患者関係 8. 統合失調症（症状評価と診断） 9. 統合失調症（治療法） 10. うつ病 11. 双極性障害 12. パニック障害 13. 強迫性障害 14. 外傷後ストレス障害 15. 認知症						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	標準精神医学				教・出版社名1	医学書院	
教・著者名1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・I S B N 1	ISBN978-4-260-02041-1	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは、修論作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込みができることである。						
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	受講態度（50％）と修論テーマの絞り込み程度による（50％）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各自の発表に基づいて、その都度フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	修士課程のゼミらしく、自分で調べて、それでもわからないところは質問する。 発表の準備に2時間以上、復習・課題の整理に2時間は要する。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション & 研究倫理について						森井	
2. 今後の研究計画について						森井	
3. 心理学研究法の基礎						森井	
4. 文献検索(キーワードの検討)						森井	
5. 中心的関連文献(図書)の検索						森井	
6. 周辺の関連文献(図書)の探索						森井	
7. 実験計画法(剰余変数の扱い)						森井	
8. 実験計画法（要因計画）						森井	
9. 記述統計の重要性						森井	
10. カイ二乗検定						森井	
11. 実験計画と分散分析						森井	
12. 雑誌論文紹介(レビュー)						森井	
13. 雑誌論文紹介(方法・結果)						森井	
14. 雑誌論文紹介（考察・問題点）						森井	
15. 研究テーマの発表とまとめ						森井	
教科書							
教・書籍名1	教科書は使用しない。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	適宜、指示する。				参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：修士論文作成にむけて、研究テーマを設定する 到達目標： 1. 先行研究について情報収集し、何がどこまで明らかにされているか把握できる 2. 研究テーマが設定できる						
授業概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているかを把握する。春学期の終わりまでに研究テーマを設定することを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	発表内容(80%)と討議への参加態度（20％）により評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表内容について適宜フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む						
事前学習・事後学習とその時間	テーマに直接・間接的にかかわる文献をよく読み込むこと。日に1時間以上の自己学修を確保してほしい。						
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 研究の基本指針 3. 行動規範と研究倫理 4. 先行研究の調べ方：学術誌と大学紀要 5. 先行研究の調べ方：検索サイト 6. 先行研究の調べ方：学会発表 7. テーマの検討：代表的な知見 8. テーマの検討：代表的な先行研究 9. テーマの検討：先行研究の課題 10. テーマの検討：関連研究の概観 11. テーマと研究計画：試案づくり 12. テーマと研究計画：研究手法 13. テーマと研究計画：目的 14. テーマと研究計画：目的と方法 15. テーマと研究計画：方法と分析方法						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版				教・出版社名1	東京書籍	
教・著者名1	平井明代				教・I S B N 1	448902262X	
教・書籍名2	ポジティブなこころの科学				教・出版社名2	サイエンス社	
教・著者名2	堀毛一也				教・I S B N 2	4781914589	
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。 関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。						
授業概要	認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法 論等について,個々に指導または,ゼミにおける発表等を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは、次の講義の最初およびteamsを用いて行う。						
履修条件・注意事項	学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	本講は、授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い、教員が行う研究に積極的に参加することで、学修効果も上がり、より実践的に学ぶことが可能となる。また、興味のあるテーマについて、積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで、討議への参加度の増大にもつながる。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション&研究倫理について 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表 (テーマに沿った実験計画か?) 6. 実験計画発表 (その実験計画は可能か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論 (データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論 (まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. 総括						橋本翠	
教科書							
教・書籍名1	研究内容および研究の進捗状況に応じて適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	脳波解析入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著)				参・I S B N 1	978-4-13-012111-8	
参・書籍名2	心理学のための事象関連電位ガイドブック				参・出版社名2	北大路書房	
参・著者名2	入戸野宏(著)				参・I S B N 2	4-7628-2462-3	



授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、特に福祉・教育・司法犯罪領域に関連する研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：関連する文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の自身の研究テーマを決定して研究計画を立てることができる。						
授業概要	主に実践研究の手法を学ぶ。 ①先行研究や実践研究論文について、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献の講読を行いながら臨床的意義や研究仮説を検討し、研究の計画を立案する。 ③実践方法、データの集積、分析、論文執筆方法について学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢（40%） ②理解促進のために提出するレポートやプレゼンテーションの内容（30%） ③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等（30%） 以上を、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究を遂行するため、授業時間外の自己学修や、指導教員が行う臨床実践や研究への参加が必要である。 自身の実践以外にも積極的に参加すること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学修としては、 ①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする（研究室） ゼミ以外の時間に相談や個別指導を希望する際は、各自で連絡を取り、日程を確認すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. これまでの研究活動の発表 3. 研究テーマの検討 4. 文献に関する検討（1）先行研究の紹介 5. 文献に関する検討（2）先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討（3）ディスカッション 7. 研究方法（1）研究倫理 8. 研究方法（2）データの収集法 9. 研究方法（3）データの分析 10. 研究方法（4）実践研究の進め方 11. 研究方法（5）実践研究の準備 12. 研究テーマ決定 13. 研究計画の立案 14. 実践研究の計画・準備 15. まとめと今後の計画						全回：藤原直子	
教科書							

教・書籍名 1	研究内容・研究方法に応じて、適宜、参考書籍や資料を提示する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：関連する文献の検索・レビューを通じて、修士論文の自身の研究テーマを決定して研究計画を立てることができる。						
授業概要	研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆について指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	①文献講読、その内容理解への努力、また研究に対する姿勢（60%） ②課題の提出やプレゼン（20%） ③研究計画の立案、倫理的配慮等（20%） 以上を、総合的に評価する。 なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	研究を進めるためには、授業時間外の自己学修や、指導教員が実施する実践への参加が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4時限 研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理について 2. これまでの研究活動の発表 3. 研究テーマの検討 4. 文献に関する検討（1）先行研究の紹介 5. 文献に関する検討（2）先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討（3）ディスカッション 7. 研究方法指導（1）研究倫理 8. 研究方法指導（2）データの収集方法 9. 研究方法指導（3）データの分析方法 10. 研究方法指導（4）実践研究の進め方 11. 研究方法指導（5）実践研究の準備 12. 研究テーマ決定 13. 研究計画の立案 14. 研究計画の発表 15. まとめ						宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		

参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標：文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。						
授業概要	先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション						
評価方法と割合	演習課題への取組（40％）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。						
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理教育						土居	
2. 修士論文の作成について						土居	
3. 研究室におけるこれまでの研究						土居	
4. 修論の方向性について						土居	
5. 修論のテーマについて						土居	
6. 修論テーマの決め方						土居	
7. 修論の目的の書き方						土居	
8. 修論の方法の考え方						土居	
9. 修論の方法の手続き						土居	
10. 修論の倫理的観点						土居	
11. 修論の結果の書き方						土居	
12. 修論の考察の書き方						土居	
13. 修論のテーマを考える						土居	
14. 修論のテーマを決める						土居	
15. まとめ						土居	
教科書							
教・書籍名1	修士研究に関する、プリント配布を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	これから論文を書く若者のために				参・出版社名1	共立出版	
参・著者名1	酒井聡樹				参・I S B N 1	978-4-320-00595-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに研究計画の検討を行い、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができる。						
授業概要	特別研究Ⅰに引き続き、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢（30％）、②文献収集と内容理解への努力（30％）、③研究の進捗状況報告（40％）から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	文献収集と内容理解への努力、研究の進捗状況報告については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ（予習）を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること（復習）。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回 研究方法論に関する知見の確認 第2回 関連文献の追加収集(和文献) 第3回 関連文献の追加収集(欧文献) 第4回 文献の整理と内容分析 第5回 文献の整理と内容の理解 第6回 文献に基づくディスカッション 第7回 研究内容に関する考察（1）先行文献の吟味 第8回 研究内容に関する考察（2）先行文献の活用 第9回 研究内容に関する考察（3）仮説の設定 第10回 研究内容に関する考察（4）仮説の妥当性検討 第11回 研究計画の作成（1）研究方法の確立 第12回 研究計画の作成（2）研究方法の妥当性 第13回 研究計画の作成（3）研究方法に関する検討 第14回 研究計画の作成（4）計画の実施方法の検討 第15回 まとめ						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回講義時に授業資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	心理学研究法5「社会」				参・出版社名1	誠信書房	

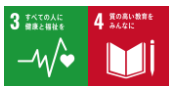
参・著者名 1	岡 隆 編著	参・ I S B N 1	987-4-414-30185-4
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ：代表的精神障害の診断と症状評価を理解する。 到達目標：大学院の学生が、精神科医療機関を訪れた患者さんの問診時に、適切な精神症状の評価に基づく精神医学的診断が出来るようになることを目標とする。						
授業概要	精神障害の診断に世界的に使用されているDSM-V或はICD-10 or 11に基づいた、適正な診断が出来るようになるために必要な精神医学的知識を学ぶ。多くの精神疾患には、それぞれの病状の重症度を評価するための症状評価尺度が開発されており、代表的な症状評価尺度が適正に使えるよう精神症状論を学ぶ。講義中に用いたスライドを、プリントして配布する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「代表的精神障害の診断と症状評価を理解する。」の到達度について、知識および能力を計るために、授業での発表を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、復習を1時間程度行う。						
オフィスアワー	木曜日2限目、6号館4F6401研究室						
授業計画						担当者	
1. 研究倫理に準拠した責任ある研究活動 2. 転換性障害・解離性障害 3. 身体症状症 4. パーソナリティー障害 5. 摂食障害 6. ケースカンファレンス 7. 睡眠－覚醒障害 8. 物質依存症 9. 器質性・症状性精神障害 10. 認知症（症状評価と診断） 11. 認知症（治療法・ケア法） 12. 自閉性障害とADHDなど 13. リエゾン精神医学 14. てんかんと器質性・症状性精神障害 15. ケースカンファレンス						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	標準精神医学				教・出版社名1	医学書院	
教・著者名1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・I S B N 1	ISBN978-4-260-02041-1	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

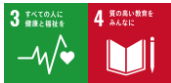
授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは、修論作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込み、および第1研究(予備的研究)を開始することである。						
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していくとともに、予備的な実験の開始につなげる。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（50％）と修論テーマの絞り込み程度による（50％）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各自の発表に基づいてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	修論のテーマにそった論文を検索し、精読すること。 いつでも発表できるように準備しておくこと。 最低3時間の予習・復習を行うこと。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション・経過報告						森井	
2. 最重要論文の紹介と討議（1）						森井	
3. 最重要論文の紹介と討議（2）						森井	
4. 先行研究の紹介とテーマの発表						森井	
5. 研究計画の作成と討議						森井	
6. 実験課題の選択と作成						森井	
7. 実験プログラムの作成						森井	
8. 実験実施にあたっての注意						森井	
9. 表計算ソフトの活用						森井	
10. 記述統計（度数分布・期待値）						森井	
11. 記述統計（標準偏差・標準誤差）						森井	
12. 記述統計（相関）						森井	
13. 実験結果の発表						森井	
14. 実験の問題点等についての討議						森井	
15. まとめ・研究計画の報告						森井	
教科書							
教・書籍名1	テキストは使用しない。 適宜、プリント等を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：修士論文作成に向けて、研究テーマを設定し、研究計画をたてる 到達目標： 1. 先行研究について概観し、何がどこまで明らかにされているかを知る 2. 研究テーマを設定できる 3. 研究計画をたてることのできる						
授業概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。先行研究を概観し報告することを通して、何がどこまで明らかにされているか、今後の課題は何か、を把握する。秋学期の終わりまでに研究計画を立てることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回の報告内容（80％）と授業態度（20％）により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	報告内容について適宜フィードバックする。						
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む						
事前学習・事後学習とその時間	テーマに直接・間接的にかかわる文献を読み込むこと。予習・復習にそれぞれ2時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 先行研究の概観：知見のまとめ 3. 先行研究の概観：代表的な研究 4. 先行研究の概観：課題 5. 先行研究の概観：研究手法 6. テーマと研究計画：目的 7. テーマと研究計画：独自性と発展可能性 8. テーマと研究計画：目的と仮説 9. テーマと研究計画：研究手法 10. テーマと研究計画：研究手法と分析 11. テーマと研究計画：試案 12. テーマと研究計画：予備調査（実験） 13. テーマと研究計画：予備調査（実験）の結果 14. テーマと研究計画：予備調査の課題 15. まとめ						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方				教・出版社名1	東京書籍	
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2	教育・心理系研究のためのデータ分析入門				教・出版社名2	東京書籍	
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。 関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。						
授業概要	認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法論等について,個々に指導, または,ゼミにおける発表等を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。 毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは, 次の講義の最初およびteamsを用いて行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回,予習,復習に各2時間をかけ,学習すること。						
オフィスアワー	月曜5限:個人研究室						
授業計画						担当者	
1. 今後の研究計画の発表&研究倫理について 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表(テーマに沿った実験計画か?) 6. 実験計画発表(その実験計画は可能か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. ポスター発表(学会発表に向けての予行練習)						橋本翠	
教科書							
教・書籍名1	研究内容、研究の進捗状況に応じて、適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	脳波解析入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著)				参・I S B N 1	978-4-13-012111-8	
参・書籍名2	心理学のための事象関連電位ガイドブック				参・出版社名2	北大路書房	
参・著者名2	入戸野宏(著)				参・I S B N 2	4-7628-2462-3	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、特に福祉・教育・司法犯罪領域に関連する研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：自身の研究計画を立てて研究準備をするとともに、複数の先行研究をまとめることができる。						
授業概要	主に実践研究の手法を学ぶ。 ①先行研究や実践研究論文について、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献の講読を行いながら臨床的意義や研究仮説を検討し、研究の計画を立案する。 ③実践方法、データの集積、分析、論文執筆方法について学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢（40%） ②理解促進のために提出するレポートやプレゼンテーションの内容（30%） ③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等（30%） 以上を、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。 毎回の授業内容について十分な準備を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学修としては、 ①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	毎週月曜日5限目をオフィスアワーとする（研究室） ゼミ以外の時間に相談や個別指導を希望する際は、各自で連絡を取り、日程を確認すること。						
授業計画							担当者
1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 研究テーマの報告・検討 4. 文献に関する検討（1）先行研究の紹介 5. 文献に関する検討（2）先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討（3）先行研究のレビュー発表 7. 研究計画（1）計画立案 8. 研究計画（2）データの収集・質問紙検討 9. 研究計画（3）データの分析方法 10. 研究計画（4）仮説・考察 11. 研究準備（1）実践対象者の決定・依頼 12. 研究準備（2）倫理的配慮の確認、倫理審査委員会の書類作成・提出 13. 研究準備（3）対象者の募集・内容説明 14. 中間発表の資料作成・プレゼン 15. 中間発表・まとめ							全回：藤原直子
教科書							
教・書籍名 1	研究内容・研究方法に応じて、適宜、参考書籍や資料を提示する。					教・出版社名 1	

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：関連する文献の検索・レビューを通じて、修士論文の自身の研究テーマを決定して研究計画を立てることができる。						
授業概要	研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆、研究倫理について指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	①文献講読、その内容理解への努力、また研究に対する姿勢（60%） ②課題の提出やプレゼン（20%） ③研究計画の立案、倫理的配慮等（20%） 以上を、総合的に評価する。 なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	研究を進めるためには、授業時間外の自己学修や、指導教員が実施する実践への参加が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4時限 研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 研究テーマの報告・検討 4. 文献に関する検討（1） 先行研究の紹介 5. 文献に関する検討（2） 先行研究のレビュー 6. 文献に関する検討（3） ディスカッション 7. 研究計画指導（1） 研究倫理 8. 研究計画指導（2） データの収集・質問紙作成 9. 研究計画指導（3） データの分析方法 10. 研究計画指導（4） 仮説の検討 11. 研究準備（1） 調査対象者の決定・依頼 12. 研究準備（2） 倫理審査の書類作成 13. 研究準備（3） 対象者への研究内容説明 14. 中間発表の資料作成・プレゼン 15. 中間発表・まとめ						宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		

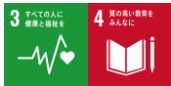
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標：文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。						
授業概要	先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディベート						
評価方法と割合	演習課題への取組（40％）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。						
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						土居	
2. 第1研究のテーマの決定						土居	
3. 研究計画の考案						土居	
4. 研究計画の作成						土居	
5. 調査用紙の考案						土居	
6. 調査用紙の作成						土居	
7. 調査の手配						土居	
8. 調査実施						土居	
9. データの打ち込み						土居	
10. データの整理						土居	
11. 統計的解析						土居	
12. 合成得点の算出						土居	
13. 基礎データの算出						土居	
14. 信頼性係数の算出						土居	
15. まとめ						土居	
教科書							
教・書籍名1	修士研究に関する、プリント配布を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	これから論文を書く若者のために				参・出版社名1	共立出版	
参・著者名1	酒井聡樹				参・I S B N 1	978-4-320-00595-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができるとともに、論文を作成することが出来る。						
授業概要	修士論文作成に向けて、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢（30％）、②文献収集と内容理解への努力（30％）、③研究の進捗状況報告（40％）から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	文献収集と内容理解への努力、研究の進捗状況報告については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ（予習）を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること（復習）。						
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回 研究方法論に関する知見の整理・確認及び研究倫理に関する教育 第2回 関連文献の追加収集(和文献) 第3回 関連文献の追加収集(欧文献) 第4回 修士論文のテーマの検討 第5回 修士論文の内容構成の検討 第6回 研究計画の作成（1）研究方法の確立 第7回 研究計画の作成（2）研究方法の妥当性 第8回 研究計画の作成（3）研究方法に関する検討 第9回 研究計画の作成（4）計画の実施方法の検討 第10回 修士論文の内容に関する考察（1）先行文献の吟味 第11回 修士論文の内容に関する考察（2）先行文献の活用 第12回 修士論文の内容に関する考察（3）仮説の設定 第13回 修士論文の内容に関する考察（4）仮説の妥当性検討 第14回 修士論文の全体構成に関するディスカッション 第15回 まとめ						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回授業時に資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1	心理学理論ガイドブック				参・出版社名1	ナカニシヤ出版	
参・著者名1	夏堀睦他編著				参・ISBN1	978-4-7795-0161-6	
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・発表
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発を理解する。 到達目標：学生は、分子精神薬理学及び脳画像学を用いた精神障害の病態解明についての研究を学び、このような研究を用いた精神障害の診断・治療バイオマーカーの評価が出来るようになる。						
授業概要	分子精神薬理学及び脳画像学を用いた病態解明の進んでいる、気分障害（うつ病・双極性障害）・統合失調症・不安障害などを取り上げ、最先端の病態研究の結果を学ぶ。その上でこれらの病態研究の結果から導き出された診断や治療反応性予測のためのバイオマーカーについて、薬物治療・認知行動療法・Device-based Treatmentによるバイオマーカーの変動を学び、実際の治療場面での活用や評価が出来るよう習熟する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発を理解する」の到達度について、知識 および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、予習・復習を各1時間程度行う。						
オフィスアワー	火曜3限、6号館4階6401研究室						
授業計画						担当者	
1. 研究倫理に準拠した責任ある研究活動 2. 精神薬理学・脳画像学 3. うつ病の病態と治療 4. 薬物治療とうつ病バイオマーカー 5. 認知行動療法とうつ病バイオマーカー 6. Device-based Treatmentとうつ病バイオマーカー 7. 双極性障害の病態と治療 8. 双極性障害とうつ病の相違点 9. 双極性障害のバイオマーカー 10. 統合失調症の病態と治療 11. 統合失調症のリハビリテーション 12. 薬物治療と統合失調症バイオマーカー 13. 認知行動療法と統合失調症バイオマーカー 14. Device-based Treatmentと統合失調症バイオマーカー 15. バイオマーカー研究の将来展望						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	標準精神医学				教・出版社名1	医学書院	
教・著者名1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・I S B N 1	ISBN978-4-260-02041-1	

教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは、修論作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込み、および第1研究(予備的研究)を開始することである。						
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していくとともに、予備的な実験の開始につなげる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	受講態度（50％）と修論テーマの絞り込み程度による（50％）。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各自の発表に基づいてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	修論のテーマにそった論文を検索し、精読すること。 いつでも発表できるように準備しておくこと。 授業の準備等に4時間/週は必要である。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション & 研究倫理について 2. 経過報告 3. 最重要論文の紹介と討議 4. 先行研究の紹介とテーマの発表 5. 研究計画の作成と討議 6. 実験課題の選択と作成 7. 実験プログラムの作成 8. 実験実施にあたっての注意 9. 表計算ソフトの活用 10. 記述統計（度数分布・期待値） 11. 記述統計（標準偏差・標準誤差） 12. 記述統計（相関） 13. 実験結果の発表 14. 実験の問題点等についての討議 15. まとめ・研究計画の報告						森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書							
教・書籍名1	テキストは使用しない。 適宜、プリント等を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：修士論文作成に向けて、調査や実験を実施し、結果を分析する。 到達目標： 1. 研究計画に基づき、調査や実験をおこなう。 2. 結果を定められた手法に基づき分析できる。						
授業概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。この学期の終了までに、調査や実験を実施して結果の分析ができることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	7回以上の発表を行うとともに、修士論文の中間報告を一定の水準で行った者に対して単位を与える。発表の内容及水準（80％）および取り組み姿勢（20％）により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	研究発表について適宜フィードバックする。						
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む。						
事前学習・事後学習とその時間	テーマに直接・間接的にかかわる文献を大量に読み込むこと。日に1時間以上の自己学修を確保したい。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーションおよび研究倫理 2. 研究計画：目的と仮説 3. 研究計画：方法の検討 4. 研究計画：分析 5. 予備調査（実験）：実施 6. 予備調査（実験）：結果分析 7. 予備調査（実験）：課題の検討 8. 調査・実験：実施 9. 調査・実験：結果 10. 調査・実験：記述統計 11. 調査・実験：図表 12. 調査・実験：統計 13. 調査・実験：統計結果 14. 調査・実験：統計の解釈 15. 調査・実験：統計のまとめ						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方				教・出版社名1	東京書籍	
教・著者名1					教・I S B N 1	448902262X	
教・書籍名2	教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版				教・出版社名2	東京書籍	
教・著者名2					教・I S B N 2	448902262X	
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。 関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。						
授業概要	認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法 論等について,個々に指導または,ゼミにおける発表等を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	大学院修士課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。 毎回の講義で出される課題についてのフィードバックは、次の講義の最初およびteamsを用いて行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	本講は、授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い、教員が行う研究に積極的に参加することで、学修効果も上がり、より実践的に学ぶことが可能となる。また、興味のあるテーマについて、積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで、討議への参加度の増大にもつながる。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション&研究倫理について 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表(テーマに沿った実験 計画か?) 6. 実験計画発表(その実験計画は可能 か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての 実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. 総括						橋本翠	
教科書							
教・書籍名1	研究の内容、研究の進捗状況に応じて、適宜支持する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	脳波解析入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著)				参・I S B N 1	978-4-13-012111-8	
参・書籍名2	心理学のための事象関連電位ガイドブック				参・出版社名2	北大路書房	
参・著者名2	入戸野宏(著)				参・I S B N 2	4-7628-2462-3	

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、特に福祉・教育・司法犯罪領域に関連する研究および心理臨床実践を行う。 到達目標：自身の研究テーマについて文献研究を行うとともに、現場において心理臨床実践を行うことができる。						
授業概要	学生自身が心理臨床に関する実践研究を行う。 ①先行研究や実践研究論文についてまとめ、文章で表現し考察する力を高める。 ②研究の計画に基づいて実践を行い、効果検証を行う。 ③結果を分析し、研究意義や課題について考察しながら、修士論文を執筆する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢（40%） ②理解促進のために提出するレポートやプレゼンテーションの内容（30%） ③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等（30%） 以上を、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。 毎回の授業内容について十分な準備や資料作成を行うとともに、受講後は、課題を整理し、次回の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学修としては、 ①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	毎週月曜日4限目をオフィシアワーとする（研究室） ゼミ以外の時間に相談や個別指導を希望する際は、各自で連絡を取り、日程を確認すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 先行研究の発表 3. 研究計画の発表・検討 4. 実践に関する検討（1）目的と方法 5. 実践に関する検討（2）実践内容 6. 実践に関する検討（3）効果測定 7. 研究実践（地域における心理教育） 8. 研究実践（1）実践内容の検討 9. 研究実践（2）効果測定の分析 10. 研究実践（3）社会的妥当性の検討 11. 研究実践（4）今後の課題の検討 12. 論文執筆計画の作成 13. 論文執筆における倫理的配慮・個人情報保護の確認 14. 序論執筆・発表 15. まとめと今後の計画						全回：藤原直子	

教科書			
教・書籍名 1	研究内容・研究方法に応じて、適宜、参考書籍や資料を提示する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：研究テーマに沿った、先行研究のレビュー、データの収集と分析、考察を通じ、修士論文を完成させることができる。						
授業概要	研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆について指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	研究に関する取り組み姿勢（60％）、発表態度（20％）、研究の遂行状況（20％）等を総合的に評価する。なお、課題等へのフィードバックは授業内に行う。次回までに復習・検討しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次回の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	研究を進めるためには、授業時間外の自己学修が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の自己学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	火曜4限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理について 2. 研究の進行状況の報告 3. 研究方法（発表と検討） 4. 倫理的配慮（発表と検討） 5. 研究テーマに関する文献発表 6. 研究テーマに関する文献発表 7. 研究テーマに関する文献発表 8. 調査・分析の途中経過発表 9. 調査・分析の途中経過発表 10. 分析結果（発表と検討） 11. 分析結果（発表と検討） 12. 分析結果の考察（発表と検討） 13. 分析結果の考察（発表と検討） 14. 分析結果の考察（発表と検討） 15. まとめ						宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	特別研究Ⅲ			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標：文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。						
授業概要	先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション						
評価方法と割合	演習課題への取組（40％）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。						
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理教育						土居	
2. 第2研究のテーマの決定						土居	
3. 研究計画の考案						土居	
4. 研究計画の作成						土居	
5. 調査用紙の考案						土居	
6. 調査用紙の作成						土居	
7. 調査の手配						土居	
8. 調査実施						土居	
9. データ打ち込み						土居	
10. データの整理						土居	
11. 統計的解析						土居	
12. 合成得点の算出						土居	
13. 基礎データの算出						土居	
14. 信頼性係数の算出						土居	
15. まとめ						土居	
教科書							
教・書籍名1	修士研究に関する、プリント配布を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	これから論文を書く若者のために				参・出版社名1	共立出版	
参・著者名1	酒井聡樹				参・I S B N 1	978-4-320-00595-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	心理学における自己の関心領域を中心に、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、関連する様々な領域の研究知見を網羅的に学ぶことを目的とする。本演習の受講により、研究計画の検討を行うとともに、関係文献の検索・レビュー等を通じて、修士論文の研究テーマを明確化することができるとともに、論文を作成することが出来る。						
授業概要	修士論文作成に向けて、関心領域における基本的な文献をはじめ、先行研究の知見を網羅的に把握するために関連文献資料を通読し、研究課題の整理と研究仮説の立案に取り組む。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	研究への①主体的な取り組み・研究姿勢(30%)、②文献収集と内容理解への努力(30%)、③研究の進捗状況報告(40%)から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	文献収集と内容理解への努力、研究の進捗状況報告については学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。毎回の授業内容について十分な下調べ(予習)を行うとともに、受講後は、授業内容についてよくまとめて、次回の授業に備えること(復習)。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回 研究方法論に関する知見の整理・確認 第2回 関連文献の追加収集(和文献) 第3回 関連文献の追加収集(欧文献) 第4回 修士論文の内容構成の検討 第5回 修士論文のエビデンスに関する集計分析 第6回 修士論文のエビデンスに関わる図表作成案の検討 第7回 修士論文の作成(1) 研究目的に関する整理 第8回 修士論文の作成(2) 研究目的の作成 第9回 修士論文の作成(3) 研究方法に関する検討 第10回 修士論文の作成(4) 研究方法の作成 第11回 修士論文の作成(5) 研究内容の結果に関するまとめ 第12回 修士論文の作成(6) 研究内容の結果に関する考察 第13回 修士論文の作成(7) 研究内容の全体的考察 第14回 修士論文の作成(8) 引用参考文献の整理 第15回 まとめ						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回授業時に資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

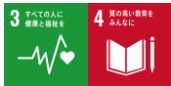
参・書籍名 1	評価される博士・修士論文の書き方考え方	参・出版社名 1	同文館出版
参・著者名 1	新堀聰著	参・ I S B N 1	4-495-86511-0
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・発表
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発を理解する。 到達目標：学生は、分子精神薬理学及び脳画像学を用いた精神障害の病態解明についての研究を学び、このような研究を用いた精神障害の診断・治療バイオマーカーの評価が出来るようになる。						
授業概要	分子精神薬理学及び脳画像学を用いた病態解明の進んでいる、気分障害（うつ病・双極性障害）・統合失調症・不安障害などを取り上げ、最先端の病態研究の結果を学ぶ。その上でこれらの病態研究の結果から導き出された診断や治療反応性予測のためのバイオマーカーについて、薬物治療・認知行動療法・Device-based Treatmentによるバイオマーカーの変動を学び、実際の治療場面での活用や評価が出来るよう習熟する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「精神障害の病態解明と診断・治療バイオマーカーの開発を理解する。」の到達度について、知識 および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントにてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、予習・復習を各1時間程度行う。						
オフィスアワー	火曜3限、6号館4階6401研究室						
授業計画						担当者	
1. 研究倫理に準拠した責任ある研究活動 2. 不安障害の病態 3. 薬物治療と不安障害バイオマーカー 4. 認知行動療法と不安障害バイオマーカー 5. 強迫性障害(OCD)の病態 6. 薬物治療とOCDバイオマーカー 7. 認知行動療法とOCDバイオマーカー 8. 外傷後ストレス障害(PTSD)の病態（臨床症状と診断） 9. PTSD（病態メカニズムと治療法） 10. 薬物治療とPTSDバイオマーカー 11. 認知行動療法とPTSDバイオマーカー 12. 認知症の病態 13. エピジェネティクス総論 14. エピジェネティック機構からみた精神障害 15. エピジェネティックバイオマーカーと精神障害						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	標準精神医学				教・出版社名1	医学書院	
教・著者名1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・I S B N 1	ISBN978-4-260-02041-1	
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは、修論作成に向けてのデータの吟味と分析法および考察の検討であり、到達目標は修士論文の草稿作成である。						
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、実験データ分析方法・結果等を確認しながら、自身の研究を修士論文へとまとめていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（50％）と関連文献の理解度（30％）、発表（20％）から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習中のディスカッションの中で、適宜、コメント（フィードバック）を行う。						
履修条件・注意事項	とにかく自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	修士課程のゼミらしく、とにかく徹底的に自分で調べて、それでもわからないところは質問する。週に4時間以上の準備等の学習が必要である。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 修論研究途中発表 3. 文献の追加収集と紹介（要旨） 4. 文献の追加収集と紹介（詳細） 5. 最終実験の検討 6. 実験方法の検討・確認 7. 実験実施と問題点の検討 8. 結果の分析と考察の検討 9. 論文の作成：問題 10. 論文の作成：方法 11. 論文の作成：結果 12. 論文の作成：図表の作成 13. 論文の作成：全体考察 14. 論文抄録の作成 15. まとめ：発表会に向けて						森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書							
教・書籍名1	教科書は使用しない。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	心理学研究法入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	南風原・市川・下山				参・I S B N 1	4-13-012035-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：修士論文作成を作成する 到達目標： 1. 研究計画に基づき、調査や実験をおこなう 2. 結果を定められた手法に基づき分析できる 3. 問題、方法、結果、考察という構成にしたがい、論文を作成できる						
授業概要	修士論文作成に向けて、少人数のゼミ形式にて指導する。問題、方法、結果、考察という構成にしたがい、抄録および論文を作成できることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回の報告内容（80％）と授業態度（20％）により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	研究発表について適宜フィードバックする。						
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む						
事前学習・事後学習とその時間	論文作成のために、日に2時間以上の自己学修を期待する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 調査・実験：実施 3. 調査・実験：結果 4. 調査・実験：記述統計 5. 調査・実験：図表 6. 調査・実験：統計 7. 調査・実験：統計結果 8. 調査・実験：結果の解釈 9. 抄録：問題、方法 10. 抄録：結果、考察 11. 論文：序論 12. 論文：目的 13. 論文：方法、結果 14. 論文：考察 15. 論文：まとめ						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方				教・出版社名1	東京書籍	
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2	教育・心理系研究のためのデータ分析入門				教・出版社名2	東京書籍	
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ:認知生理心理学についての知識を修得する。 到達目標:認知生理心理学領域における実験法,データ処理法,まとめ方を修得する。 関連学会等で最低1回は発表し,学術雑誌に最低1編の論文投稿を行うことができる。						
授業概要	認知心理学の基礎領域について講義・演習を行い,大学院生一人ひとりのテーマに従い,その際に必要な知識や方法論等について,個々に指導, または,ゼミにおける発表等を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	大学院博士(前期)課程に値する積極的な学問への取り組みなどから総合的に評価する(発表60%, 受講態度40%)。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックについては講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	学生は,常に学会発表や学術雑誌への投稿を念頭に置き,研究活動を行う必要がある。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回,予習,復習に各2時間をかけ,学習すること。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. 今後の研究計画の発表&研究倫理について 2. 文献発表(研究テーマの発想に関する文献) 3. 文献発表(研究テーマの確認に関する文献) 4. 文献発表(研究テーマの決定に関する文献) 5. 実験計画発表(テーマに沿った実験 計画か?) 6. 実験計画発表(その実験計画は可能 か?) 7. 実験計画発表(学会発表に向けての 実験計画) 8. 実験の途中経過(方法)発表 9. 実験の途中経過(結果)発表 10. 実験データについての発表・議論(データ処理に誤りはないか) 11. 実験データについての発表・議論(まとめ方に誤りはないか) 12. 実験データの発表(結果) 13. 実験データの発表(考察) 14. ポスター発表準備 15. ポスター発表(学会発表に向けての 予行練習)						橋本翠	
教科書							
教・書籍名1	研究内容、研究の進捗状況に応じて、適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	脳波解析入門				参・出版社名1	東京大学出版会	
参・著者名1	開一夫・金山範明(編) 河内山隆紀・松本敦・宮越誠(著)				参・I S B N 1	978-4-13-012111-8	
参・書籍名2	心理学のための事象関連電位ガイドブック				参・出版社名2	北大路書房	
参・著者名2	入戸野宏(著)				参・I S B N 2	4-7628-2462-3	

授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域に関する実践研究を行い、修士論文を執筆する。 到達目標：研究計画に基づいて実践し、論文としてまとめることができる。						
授業概要	主に実践研究について論文の執筆を進める。 ①先行研究や実践研究論文についてまとめ、自身の研究と関連付けてまとめる思考力や文章力を高める。 ②実践した内容についてまとめ、方法、データの分析、結果、考察について指導し論文を完成させる。 ③論文の概要を抄録にまとめるとともに、口頭にて発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	①文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究態度、及び研究指導に対する姿勢（40%） ②理解促進のために提出するレポートやプレゼンテーションの内容（30%） ③研究テーマの妥当性、研究方法、実行可能性、倫理的配慮等（30%） 以上を、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業内でフィードバックするので次回までに確認・検討しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究に対する主体的、積極的な姿勢、真摯な取り組みと情熱が望まれる。 研究のまとめや論文執筆を計画的に進めていくとともに、課題を整理してゼミに参加すること。						
事前学習・事後学習とその時間	自己学修としては、 ①自分の研究や課題に取り組むため、週4時間以上の事前学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、少なくとも2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	毎週月曜日5限目をオフィスアワーとする（研究室） ゼミ以外の時間に相談や個別指導を希望する際は、各自で連絡を取り、日程を確認すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 修士論文に関する経過発表 3. 先行研究のまとめ、発表 4. 実践の報告 5. 実践の結果分析、結果の検討 6. 今後の課題と執筆計画の発表 7. 論文執筆（1） 序論 8. 論文執筆（2） 研究方法 9. 経過発表・検討（序論～方法） 10. 論文執筆（3） 結果・考察 11. 経過発表・検討（結果～考察） 12. 論文の仕上げ（表紙～文献まで） 13. 発表準備（資料作成、発表練習） 14. 修士論文発表（ポスター発表） 15. 修士論文・口頭試問 * 論文執筆は授業時間外に計画的に行い、随時指導する。						全回：藤原直子	
教科書							
教・書籍名 1	研究内容・研究方法に応じて、適宜、参考書籍や資料を提示する。				教・出版社名 1		

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

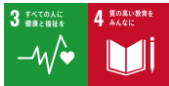
授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ：臨床心理学における自己の関心領域を中心に、研究および心理臨床実践の知識と技術を習得する。 到達目標：研究テーマに沿った、先行研究のレビュー、データの収集と分析、考察を通じ、修士論文を完成させることができる。						
授業概要	研究に関して、以下の指導を行う。 ①関連する文献を検索し、また講読することで読解力を養い、思考能力を高める。 ②文献を講読する中で、研究の臨床的意義や仮説を検討し、研究計画を立案させる。 ③研究の実践方法、データの収集、分析、論文執筆について指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	研究に関する取り組み姿勢（60％）、発表態度（20％）、研究の遂行状況（20％）等を総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。						
履修条件・注意事項	研究に対し主体的かつ積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。毎回、授業内容について予習を行い、受講後は復習し、次の授業に備えること。						
事前学習・事後学習とその時間	研究を進めるためには、授業時間外の自己学修が必要である。 自己学修としては、 ①自身の研究に関する、週4時間以上の自己学修や授業準備を行うこと。 ②授業内で生じた疑問や課題を解決し理解するため、2時間以上の事後学修を行うこと。						
オフィスアワー	火曜4限：個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション、研究倫理について 2. 研究の進行状況の報告 3. 研究方法（発表と検討） 4. 研究結果（発表と検討） 5. 研究結果（発表と検討） 6. 研究結果の考察（発表と検討） 7. 研究結果の考察（発表と検討） 8. 序論（発表と検討） 9. 序論（発表と検討） 10. 研究抄録（発表と検討） 11. 研究抄録（発表と検討） 12. ポスター発表の準備 13. ポスター発表（発表と検討） 14. ポスター発表（発表と検討） 15. まとめ						宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	特に教科書は指定しない。適宜、必要な資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

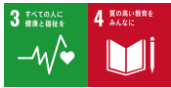
授業科目名	特別研究Ⅳ			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：修士論文を作成するにあたって必要な心理学・臨床心理学的な知識と技術を習得する。 到達目標：文献のレビューの仕方、研究計画の立て方、研究倫理の考え方、統計的解析の手法、論述の方法を習得する。						
授業概要	先行研究の要約や輪読を通して、明らかになっている知見と、明らかになっていない領域を把握していく。その上で、研究倫理的な観点から研究計画や手続きを考える。統計的分析を通して、量的データの扱いを学ぶ。得られたデータから、考えられることを記述できる力を養う。全体を通して、修士研究のテーマが統合できるように、目的に沿って論述していけるよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション						
評価方法と割合	演習課題への取組（40％）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。						
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						土居	
2. データの解析						土居	
3. 因子分析						土居	
4. t検定						土居	
5. 相関						土居	
6. 分散分析						土居	
7. 重回帰分析						土居	
8. 結果の検討						土居	
9. 結果執筆						土居	
10. 考察の検討						土居	
11. 考察執筆						土居	
12. 修論完成						土居	
13. 修論抄録の作成						土居	
14. 修論発表の資料作成						土居	
15. 発表練習						土居	
教科書							
教・書籍名1	修士研究に関する、プリント配布を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	これから論文を書く若者のために				参・出版社名1	共立出版	
参・著者名1	酒井聡樹				参・I S B N 1	978-4-320-00595-2	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	臨床心理学特論			担当者	若森 孝彰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	公認心理師に求められる知識と理論を学ぶことをテーマとする。 到達目標は、心理学検定1級および公認心理師試験6割得点以上の水準の知識を習得することである。						
授業概要	優れた臨床実践を進めるには、心理学はもちろんのこと、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野における法律や制度に関する知識が求められる。この授業では、公認心理師に必要な知識や理論を体系的に修得することを目指す。授業は、受講者がお互いの理解を確認し合う形式で進める。						
アクティブラーニングの内容	反転授業						
評価方法と割合	心理学検定の1級を取得するとともに、年度末の試験（公認心理師試験と同レベル）において6割以上の得点者に単位を与える。各単元の確認テストの成績（80%）、取組み姿勢や発表（20%）にて、秀・優・良・可の評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各単元の確認テストについては、授業時にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	毎回の出席はもちろんのこと、受講者同士が支えあって互いの知識の定着に努めることを期待する。						
事前学習・事後学習とその時間	各単元の予習と復習を徹底することを期待する。予習に2時間、復習に3時間の自己学修を求めたい。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 職責、多職種連携 3. 研究 4. 知覚、学習、感情 5. 脳、神経 6. 社会、集団 7. 発達、発達障害 8. 精神疾患 9. 健康、医療、 10. 福祉 11. 司法・犯罪 12. 産業 13. 事例 14. 問題演習 15. まとめ 16. 試験						若森孝彰	
教科書							
教・書籍名1	心理教科書公認心理師完全合格問題集2022年版				教・出版社名1	翔泳社	
教・著者名1	公認心理師試験対策研究会				教・I S B N 1	4798172731	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：代表的な心理検査を習得することを通して、心理アセスメントの基本を理解する。 到達目標：知能検査及びその他の心理検査の実施や解釈が一通りできる。						
授業概要	本演習では、知能検査について体験を通して学ぶ。知能検査では、WISC知能検査及びWAIS知能検査の結果の処理、分析、所見の書き方を学修する。授業時間の進捗によっては、その他の心理検査（神経心理学的検査・投影法等）を行う。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク						
評価方法と割合	検査法の理解、実施法の習得、および評価法を確実に学習するため、一つの検査が終わり次第、レポート提出を求める。レポートの提出とその内容（50%）と授業中の課題の取り組み状況（50%）により評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は心理検査の結果に基づいてレポートを作成する。						
履修条件・注意事項	授業は、二人グループに分かれて検査を行う。一方の学生が休むともう一方の学生が検査ができなくなってしまうことから、休まないように。						
事前学習・事後学習とその時間	予習は配布された資料について学習してくること。講義後には、課題やレポートの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	土居：月曜2限（土居研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						土居	
2. 心理アセスメントについて						土居	
3. WAIS：検査の説明						土居	
4. WAIS：実施						土居	
5. WAIS：採点						土居	
6. WAIS：解釈						土居	
7. WISC：検査の説明						土居	
8. WISC：実施						土居	
9. WISC：採点						土居	
10. WISC：解釈						土居	
11. SCT：説明と実施						土居	
12. P-Fスタディ：説明と実施						土居	
13. TAT：説明と実施						土居	
14. BGT：説明と実施						土居	
15. 質問紙：説明と実施						土居	
認定レポート						土居	
教科書							
教・書籍名1	プリント配布、板書を行う。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	心理支援に関する理論と実践			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： ・心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、効果的な支援をおこなっていくための実践的な知識とスキルを養う。 到達目標： ・心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握できる。 ・支援計画を立て、それを実行できる。						
授業概要	心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、効果的な支援をおこなっていくための実践的な知識やスキルについて、ロールプレイや事例検討を通して修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	レポート50%、スキルの習得程度30%、プレゼンテーション10%、受講姿勢10%で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートに関しては、授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	・実技演習を伴う授業のため、毎回の出席を原則とする。 ・ロールプレイの際には、練習相手への気遣いを大切にすること。						
事前学習・事後学習とその時間	指定テキストについては早めに読み進めておくこと。予習・復習に3時間以上の学修を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限 個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 心理支援の基本指針 3. 受理面接 4. 受理面接：問題の所在、家族歴 5. 受理面接：問題のパターン、現病歴 6. 受理面接：生物・心理・社会モデル 7. 面接の実際：ニーズの把握 8. 面接の実際：ゴールづくり 9. 面接の実際：問題パターンと解決努力 10. 面接の実際：例外、コーピング 11. 面接の実際：コンプリメント 12. 面接の実際：さまざまな質問 13. 事例研究：SFBT 14. 事例研究：エリクソン 15. まとめ						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチに向けて				教・出版社名1	遠見書房	
教・著者名1	日本ブリーフサイコセラピー学会				教・I S B N 1		
教・書籍名2	認知行動療法とブリーフセラピーの接点				教・出版社名2	日本評論社	
教・著者名2	津川秀夫・大野裕史				教・I S B N 2	4535983925	
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	保健医療分野に関する理論と支援の展開			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・発表
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：最新の脳科学的知見からこころの働きを理解する。 到達目標：学生が、精神症状の脳科学的理解に立脚した精神保健的介入が行える。						
授業概要	不安・抑うつ・依存・記憶・ストレスなどの高次脳機能のメカニズムについて治療薬の機序も合わせ、脳画像学・分子生物学・エピジェネティクスの領域から、最先端の知見を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「最新の脳科学的知見からこころの働きを理解する。」の到達度について、知識および能力を計るために、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、コメントすることでフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。このため毎日1時間程度の、文献検索や文献詳読が必要となる。						
オフィスアワー	火曜3限、6号館4階6401研究室						
授業計画						担当者	
1. ストレス総論 2. ストレスの分子内分泌学 3. 抑うつ脳科学 4. 養育環境の脳科学（行動科学） 5. 養育環境の脳科学（分子生物学） 6. 不安・恐怖の脳科学 7. PTSDの病態 8. PTSDの新規治療法開発 9. 記憶の分類 10. 記憶形成の脳科学 11. エピジェネティクス（基礎編） 12. エピジェネティクス（臨床編） 13. 依存の脳科学 14. 向精神薬の薬理作用 15. 課題選択とグループ討論・発表						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	スライド原稿を資料として配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・ISBN1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	福祉分野に関する理論と支援の展開			担当者	藤原 直子、村上 勝典		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	【テーマ】社会福祉の視点にたち、乳幼児から高齢者まで、さまざまな困難や障害を抱えつつ生きていく人への心理的支援の方法を学習する。そして、医学的、心理的、教育的視点から総合的に眺め、社会福祉領域における心理的支援の理論的理解と実践的技術の理解を深める。 【到達目標】 ①福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 ②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について、さまざまな対象や領域への適用方法について学び、実際の心理的支援方法を習得する。 ③特に、発達障害、虐待、認知症に関する必要な支援方法を学び、実践に生かす理論と技法を習得する。						
授業概要	乳幼児から高齢者までの心理的問題や発達障害、虐待、認知症等に関する医学的知識や理論、具体的なアセスメントおよび支援技法について、教科書・文献を用いて学び、事例検討や演習も行う。 演習では、テーマに応じた文献の紹介、プレゼンテーションを分担し、ディスカッションを行う。また、習得した理論や技法を保護者や学校教員に伝授する方法も学び、実際の心理支援場面（ペアレント・トレーニング、乳幼児健診、地域における高齢者支援など）に参加して実践力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み、演習・発表（提出）課題、最終試験を総合的に評価する。 到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。 評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20%、演習・発表課題50%、最終試験30%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習・発表について、その都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	発表の担当者は、スライド、レジュメ、資料等を準備し、授業開始時間までに印刷して配布すること。 正規の授業時間以外に、外部機関における演習やそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、必ず出席すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習として、担当教員が指示するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。 福祉領域や発達障害に関連する学術論文や専門雑誌の検索・熟読、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。 予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日5限（研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 社会福祉の理念 3. 福祉現場における活動の基本 4. 福祉（乳幼児・児童）における心理アセスメント 5. 福祉（乳幼児・児童）における心理的支援 6. 虐待に関する知識・支援 7. 発達障害者福祉分野の活動・心理的支援 8. 発達障害児者に対する心理的支援 9. 社会福祉の制度・法律 10. 福祉分野の活動における倫理 11. 福祉（高齢者）における心理アセスメント 12. 福祉（高齢者）における心理的支援 13. 障害者福祉分野の活動・心理的支援 14. 認知症に関する知識・支援						1回：藤原、村上 2～8回：藤原 9～15回：村上 16回：藤原	

15. 高齢者福祉分野の活動・心理的支援			
16. まとめと試験			
教科書			
教・書籍名1	担当教員が随時指定する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	公認心理師分野別テキスト② 福祉分野	参・出版社名1	創元社
参・著者名1	片岡玲子・米田弘枝	参・I S B N 1	978-4-422-11692-1
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	教育分野に関する理論と支援の展開			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・学生発表
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	テーマ：教育心理学の学術論文の読解を通して学ぶ理論と支援と研究法 到達目標：論文の精読を通して、①教育心理学の研究法・データの分析法についての理解を深める、②批判的に読むことができる、③支援方法について考えることができる、の3点を到達目標とする。						
授業概要	「いじめ」の問題を扱った教育心理学的な研究論文の精読・解説を中心におこなう。理解が深まった時点で、当該研究論文について批判的に優れた点、問題点、改善点等を出し合い、さらにその応用と支援のあり方などについて討議する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）、発表内容・姿勢（40％）、および授業中に2回ほど行う小テスト（20％）により評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表内容、小テストについては、そのつどフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	心理統計についての理解が不足している人は、それなりの努力を有する。						
事前学習・事後学習とその時間	論文を読んで、不明箇所は、必ず調べておくこと。（2時間以上） 授業内容を振り返るとともに、課題に取り組むこと。（2時間以上）						
オフィスアワー	月曜日4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション いじめとは						森井	
2. 論文1 中高生のいじめ認識（概要紹介）						森井	
3. 論文1 // （研究法・応用性の検討）						森井	
4. 論文2 関係者の心理的ストレス（概要紹介）						森井	
5. 論文2 // （研究法・応用性の検討）						森井	
6. 論文3 いじめ防止プログラム（概要紹介）						森井	
7. 論文3 // （研究法・応用性の検討）						森井	
8. 論文4 加害者への対応（概要紹介）						森井	
9. 論文4 // （研究法・応用性の検討）						森井	
10. 論文5 学級の集団規範（概要紹介）						森井	
11. 論文5 // （研究法・応用性の検討）						森井	
12. 論文6 自尊感情、有能感との関係（概要紹介）						森井	
13. 論文6 // （研究法・応用性の検討）						森井	
14. 統計の基礎のおはなし						森井	
15. まとめ（研究と実践）						森井	
教科書							
教・書籍名1	使用しない。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	いじめ指導24の鉄則—うまくいかない指導には「わけ」がある				参・出版社名1	学事出版	
参・著者名1	吉田 順				参・I S B N 1	ISBN-13: 978-4761921651	
参・書籍名2	いじめとは何か—教室の問題、社会の問題				参・出版社名2	中公新書	
参・著者名2	森田 洋司				参・I S B N 2		

授業科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜4限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	【テーマ】 司法・犯罪分野におけるさまざまな社会的問題や心理的支援について学習する。そして、犯罪被害者・加害者および家族や支援者に対する心理的支援の理論と実践的技術の理解を深める。 【到達目標】 ①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件に関する法規および基本知識を習得する。 ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関するアセスメントや支援技法方法を学び、実践に生かすことができる。 ③保護・矯正施設において実施されている各種矯正プログラムについて学び、実施に必要な知識と技術を習得する。						
授業概要	犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基礎知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援、について、教科書・文献を用いて学び、事例検討や演習も行う。 演習では、テーマに応じた文献の紹介、プレゼンテーションを分担し、ディスカッションを行う。また、習得した理論や技法を犯罪被害者・加害者に適用する方法も学び、演習を行い、実践力を身につける。 さらに、司法・犯罪分野における心理職の実際を学ぶため、法務技官や科学捜査研究所（科捜研）職員の特別講義も聴講する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み、演習・発表（提出）課題、最終試験を総合的に評価する。 到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。 評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20%、演習・発表課題50%、最終試験30%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習・発表について、その都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	発表の担当者は、スライド、レジュメ、資料等を準備し、授業開始時間までに印刷して配布すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習として、担当教員が指示するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。 司法犯罪分野に関連する学術論文や専門雑誌の検索・熟読、関連法規やニュース記事にも関心をもって読むこと。 予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日5限（研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 司法・犯罪分野の制度・法律 3. 司法・犯罪分野における職種 4. 司法・犯罪分野での活動の倫理 5. 各機関における活動：警察、裁判所、鑑別所 6. 各機関における活動：少年院、刑務所、保護施設など 7. 犯罪・非行への心理的支援 8. 犯罪被害への心理的支援 9. 矯正教育における動機づけ面接 10. 矯正教育における動機づけ面接の実際（演習） 11. 科学捜査研究所における心理職の役割（外部講師） 12. 司法・犯罪分野における心理アセスメントの実際						全回：藤原直子 第11回：外部講師（岡山県警察本部科学捜査研究所）	

13. 司法・犯罪分野における心理的支援：処遇プログラム	
14. 司法・犯罪分野における心理的支援：認知行動療法	
15. 犯罪防止・予防のプログラム	
16. まとめ	

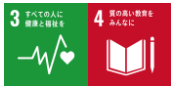
教科書

教・書籍名 1	各回の内容に応じて、随時指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開 集中			担当者	福崎 俊貴		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義および演習，討論
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義のテーマは職場における一次予防から三次予防のメンタルヘルス対策である。産業心理学の主要な概念を用いて、就労者のメンタルヘルスに関わる事象について心理学的に理解し、説明できるようになることを目標とする。						
授業概要	人が働くことに伴う様々な事象について、心理学的視点から理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク						
評価方法と割合	授業発表（60％），レポート提出およびレポートの内容（40％）により評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項							
事前学習・事後学習とその時間	事前に資料を配布しそれらをもとに授業を進める。提供資料の内容について事前学習（2時間）と講義内容に関する事後学習（2時間）を求める。						
オフィスアワー	特に定めない。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 職場のメンタルヘルスの歴史と現状 3. 産業精神保健制度 4. 職場におけるメンタルヘルス専門家の役割 5. 職業性ストレスモデル 6. ストレスチェック制度 7. ハラスメント 8. 働く人のメンタル不調の兆候について 9. 事例検討（メンタル不調の兆候） 10. 職場のメンタルヘルス（セルフケア） 11. 職場のメンタルヘルス（ラインケア） 12. 産業保健スタッフ等の他職種連携 13. 復職支援 14. 事例検討（復職支援） 15. 緊急支援および危機介入 16. レポート試験						1. 福崎俊貴 2. 福崎俊貴 3. 福崎俊貴 4. 福崎俊貴 5. 福崎俊貴 6. 福崎俊貴 7. 福崎俊貴 8. 福崎俊貴 9. 福崎俊貴 10. 福崎俊貴 11. 福崎俊貴 12. 福崎俊貴 13. 福崎俊貴 14. 福崎俊貴 15. 福崎俊貴 16. 福崎俊貴	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	ここが知りたい職場のメンタルヘルスケア: 精神医学の知識&精神医療との連携法				参・出版社名1	南山堂	
参・著者名1	日本産業精神保健学会				参・I S B N 1		
参・書籍名2	職場におけるメンタルヘルスのスペシャリストBOOK				参・出版社名2	培風館	
参・著者名2	川上憲人・堤明純				参・I S B N 2		

授業科目名	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践			担当者	津川 秀夫、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	対人関係および集団における人の意識や行動について、また家族の機能や家族内の関係が及ぼす影響について理解し、どのように関わっていくかについて、基礎知識の修得と関わり方の基本を身につけることを目標とする。						
授業概要	対人関係および集団における人の意識や行動、また家族の機能や家族内の関係が及ぼす影響について、基本的な知識を修得した上で、実際の関わり方を学ぶ。また、受講者の興味に応じて、実際のスキル・トレーニングを取り入れたり視覚教材を用いたりする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	担当箇所の発表(30%)、授業への参加態度(50%)、レポート(20%)により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う。						
履修条件・注意事項	心理的支援につながる知識と具体的スキルに焦点をあてた授業のため、心理的支援に関心のある者の受講を希望する。						
事前学習・事後学習とその時間	指定テキストをあらかじめ読んで授業に臨むこと。予習・復習にそれぞれ2時間を要する。						
オフィスアワー	津川：月曜4限（個人研究室） 宇都宮：火曜2限（個人研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 家族療法とブリーフセラピー 3. 合わせとずらし 4. リソース、例外 5. 解決像 6. スケーリング・クエスチョン 7. 事例（妄想） 8. 事例（DV） 9. 事例（指示されて来た場合） 10. ブリーフセラピーまとめ 11. 集団・組織の特徴 12. 集団に働きかけるコミュニケーション 13. SGEとは 14. SGEの計画 15. SGEの実践						津川 宇都宮	
教科書							
教・書籍名1	認知行動療法とブリーフセラピーの接点				教・出版社名1	日本評論社	
教・著者名1	津川秀夫・大野裕史				教・I S B N 1	4535983925	
教・書籍名2	エンカウンター—心とこころのふれあい				教・出版社名2	誠信書房	
教・著者名2	國分 康孝				教・I S B N 2	978-4414403091	
参考書							
参・書籍名1	ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチ				参・出版社名1	遠見書房	
参・著者名1	日本ブリーフサイコセラピー学会				参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	心の健康教育に関する理論と実践			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	【テーマ】 認知行動療法は、クライアントの不応状態に関連する行動・情動・認知の問題に対して、学習理論をはじめとする行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて介入を行う心理療法で、現代社会における「こころの健康教育」の中心的手法である。本講義では、「こころの健康教育」を実践するために必要な行動療法および認知行動療法の基礎となる理論や技法、心理的支援場面への適応方法を学ぶ。 【到達目標】 ①行動療法および認知行動療法の基本原理・主な技法、介入のすすめ方を理解できる ②さまざまな対象や領域への「こころの健康教育」の理論と技法について学び、実際の現場において活用できるようになる。 ③特に、児童・生徒への心理教育（ストレスマネジメント）、発達障害児の保護者へのペアレント・トレーニング、うつ病患者への認知行動療法を実施できる実践力を習得する。						
授業概要	背景となる理論、具体的なアセスメントおよび介入技法等について、教科書・文献を用いて学び、事例検討や演習も行う。 演習では、テーマに応じた文献の紹介、プレゼンテーションを分担し、ディスカッションを行う。また、理論や技法を活用する方法を学んだ後、実際に心理教育プログラムを実施して実践力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み、演習・発表（提出）課題、最終試験を総合的に評価する。 到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。 評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20％、演習・発表課題50％、最終試験30％とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習・発表について、その都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	発表の担当者は、スライド、レジュメ、資料等を準備し、授業開始時間までに印刷して配布すること。 正規の授業時間以外に、心理教育プログラムへの参加やそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、積極的に参加すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習として、担当教員が指示するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。 認知行動療法や心理教育に関連する書籍や学術論文の検索・熟読、関連法規の閲覧、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。 予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日4限（研究室）						
授業計画							担当者
1. オリエンテーション 2. 心の健康教育の対象と領域 3. 認知行動療法を用いた心理教育の理論：行動理論 4. 認知行動療法を用いた心理教育の理論：応用行動分析 5. 認知行動療法を用いた心理教育の理論：認知再構成法 6. 保護者に対する「ペアレント・トレーニング」 7. ペアレント・トレーニングの理論と技法 8. ペアレント・トレーニングの実践 9. 児童・生徒に対する心理教育 10. 心理教育（ストレスマネジメント）に用いる理論と技法 11. 心理教育（ストレスマネジメント）の実践							全回：藤原直子

12. 防煙教育・禁煙支援	
13. 禁煙支援プログラムの実践	
14. うつ病に対する認知行動療法	
15. うつ病に対する治療プログラム	
16. まとめ	

教科書			
教・書籍名 1	各回の内容に応じて、随時指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	心理実践実習Ⅰ			担当者	津川 秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原 直子、土居 正人、村上 勝典、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 10. 人や国の不平等をなくそう						
到達目標	【公認心理師必修科目】 本実習は、福祉分野の施設において、心理臨床の現場理解およびチームでの心理支援の理解を深めることをテーマとし、以下の事項について基本的な水準の知識および技能の修得を到達目標とする。 (1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得について、実際に心理支援を担当し、指導を受ける。 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 等 (2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について、振り返りのミーティング等で理解を深める。 (3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、集団療法等から理解を深める。 (4) 多職種連携及び地域連携の実際を体験的に学ぶ。 (5) 職業倫理及び法的義務について実際に学ぶ。						
授業概要	福祉分野の学外実習施設において、見学だけでなく、心理支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受け、公認心理師に必要な技術や心得を修得する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	実習日誌の記録・実習報告・課題等の取り組み(30%)、学外実習における態度・実習内容・実習指導担当者からの評価(70%)による総合的評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習報告や課題へのフィードバックは授業時間内に行う。						
履修条件・注意事項	学外実習(90時間以上)の参加を原則とする。 臨床現場での実習であるため、実習施設のルールおよび指導に従うこと。ルールや指導に従わず臨床現場の秩序を乱す、クライアントやその家族等に迷惑をかけるといった行為があった場合は、その場で実習中止を申し渡すことがある。 各自の実習報告やレポートは、指定された期日までに実習先指導者や実習指導教員に提出すること。						
事前学習・事後学習とその時間	実習先や実習分野、支援対象者について事前に学習し、基本的な面接技法、心理療法について復習しておく。実習指導を学外実習指導担当者や実習担当教員から受け、事前・事後学習を行うこと。復習や事前・事後学習は毎回1・2時間程度を要する。						
オフィスアワー	津川(月曜日4限) 藤原(月曜日4限) 土居(月曜日2限) 宇都宮(水曜日3限) 村上(木曜日3限)						
授業計画						担当者	
教科書							
教・書籍名1	特に指定しない				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	心理実践実習Ⅱ			担当者	津川 秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原 直子、土居 正人、村上 勝典、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に   						
到達目標	【公認心理師必修科目】 本実習は、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の4分野の施設において、心理臨床の現場理解およびチームでの心理支援の理解を深めることをテーマとし、以下の事項について基本的な水準の知識および技能の修得を到達目標とする。 (1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得について、実際に心理支援を担当し、指導を受ける。 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 等 (2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について、振り返りのミーティング等で理解を深める。 (3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、集団療法等から理解を深める。 (4) 多職種連携及び地域連携の実践を体験的に学ぶ。 (5) 職業倫理及び法的義務について実際に学ぶ。						
授業概要	福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野の学外実習施設において、見学だけでなく、心理支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受け、公認心理師に必要な技術や心得を修得する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	実習の事前学習・発表、実習報告、課題等の取り組み(30%)、学外実習における態度・実習内容・実習記録・実習指導担当者からの評価（70%）による総合的評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習期間中は、各実習期間において実習指導者からフィードバックを受ける。 大学における実習指導・実習報告・課題へのフィードバックは授業時間外に行う場合もある。						
履修条件・注意事項	学外実習の参加を必須とする。特別な事情により、学外実習施設における実習が困難な場合は、学内において実習および代替授業を行う場合もある。 4分野の中から実習担当教員の指導のもとで選択・決定し、少なくとも2分野以上において実習を行うこと。 臨床現場での実習であるため、実習施設のルールおよび指導に従うこと。ルールや指導に従わず臨床現場の秩序を乱す、クライアントやその家族等に迷惑をかけるといった行為があった場合は、その場で実習中止を申し渡すことがある。 各自の実習報告やレポートは、指定された期日までに実習先指導者や実習指導教員に提出すること。						
事前学習・事後学習とその時間	実習先や実習分野、支援対象者について事前に学習し、基本的な面接技法、心理療法について復習しておく。実習指導を学外実習指導担当者や実習担当教員から受け、事前・事後学習を行うこと。復習や事前・事後学習は毎回1・2時間程度を要する。						
オフィスアワー	藤原（月曜日4限） 津川（水曜日3限） 宇都宮（水曜日3限） 土居（月曜日2限） 村上（木曜日3限）						
授業計画						担当者	
年間を通して福祉あるいは教育分野における実習を行う他、春学期（夏季休業中を含む）に福祉、産業・労働分野、秋学期に教育、司法・犯罪分野の実習を行う予定である。						全員で担当する 実習施設に関する実習指導は、各施設の担当教員が中	

			心に行う。
教科書			
教・書籍名 1	教科書は指定しないが、公認心理師および各実習分野の関係書籍を読んでもよくこと	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	心理実践実習Ⅲ			担当者	津川 秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原 直子、土居 正人、村上 勝典、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	【公認心理師必修科目】 本実習は、医療分野の施設において、心理臨床の現場理解およびチームでの心理支援の理解を深めることをテーマとし、以下の事項について基本的な水準の知識および技能の修得を到達目標とする。 (1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得について、実際に心理支援を担当し、指導を受ける。 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 等 (2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について、振り返りのミーティング等で理解を深める。 (3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、集団療法等から理解を深める。 (4) 多職種連携及び地域連携の実際を体験的に学ぶ。 (5) 職業倫理及び法的義務について実際に学ぶ。						
授業概要	医療分野の学外実習施設において、見学だけでなく、心理支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受け、公認心理師に必要な技術や心得を修得する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	実習日誌の記録・実習報告・課題等の取り組み(30%)、学外実習における態度・実習内容・実習指導担当者からの評価（70%）による総合的評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習報告や課題へのフィードバックは授業時間内に行う。						
履修条件・注意事項	学外実習（90時間）の参加を原則とする。 臨床現場での実習であるため、実習施設のルールおよび指導に従うこと。 ルールや指導に従わず臨床現場の秩序を乱す、クライアントやその家族等に迷惑をかけるといった行為があった場合は、その場で実習中止を申し渡すことがある。 各自の実習報告やレポートは、指定された期日までに実習先指導者や実習指導教員に提出すること。						
事前学習・事後学習とその時間	学外実習先や実習分野、支援対象者について事前学習し、基本的な面接技法、心理療法について復習しておく。実習指導を学外実習指導者や実習担当教員から受け、事前・事後学習を行うこと。復習や事前・事後学習は1・2時間程度を要する。						
オフィスアワー	津川（月曜日4限） 藤原（月曜日4限） 宇都宮（水曜日3限） 土居（月曜日2限） 村上（木曜日3限）						
授業計画						担当者	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	
教・著者名1						教・I S B N 1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・I S B N 2	
参考書							

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	心理実践実習Ⅳ			担当者	津川 秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原 直子、土居 正人、村上 勝典、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	90	授業形態	実習・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／ 10. 人や国の不平等をなくそう  						
到達目標	地域において心理支援にかかわる心理師の役割、心理支援の実践について実習を通して体験的に理解する。 地域における心理支援の現場に見学や実習を通して参加し、公認心理師に必要な知識・技能を修得することを到達目標とする。						
授業概要	学内心理相談室ならびに地域の機関において、心理支援の基礎を体験的に学ぶ。 具体的には、以下の内容を行う。 1. 心理相談室の運営会議、事例検討会への参加 2. 心理相談室において心理相談員が行う面接への参加（心理検査、集団療法を含む） 3. 地域の小学校における心理検査ならびに支援 4. 実習担当教員が実施または指導する公的機関における心理発達相談、心理検査、巡回相談・コンサルテーション・心理教育、高齢者支援等への参加 5. 心理支援に必要な基本的な知識・技法の習得（面接・実習記録、インテイク面接など） なお、実習は、①事前指導、②実習、③実習の記録・報告・事後指導の3つの要素から構成される。 実習日はオリエンテーションにおいて年間予定を提示する他、機関の依頼により随時提示する。実習日以外に、事前指導および事後指導（カンファレンス）を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	単位認定は、事前・事後指導への取り組み（20％）、実習への取り組み（50％）、実習記録および報告（30％）を総合して評価する。 実習（面接、検査）については、実習簿に記録し、実習担当教員の指導受けたうえで捺印を得ることが必要である。 修了までに、定められた回数あるいは時間の実習を行う必要がある。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習報告や課題のフィードバックは授業時間内に行う。						
履修条件・注意事項	面接・検査・その他全ての心理支援への参加については、事前事後指導も含め、遅刻・欠席することなく参加できることを条件とする。 学内・学外に関わらず、関与できる実習に積極的に参加すること。 社会人としての基本的な礼儀・礼節を重んじることはもちろん、心理支援の場であることを十二分に認識し、真摯かつ謙虚な態度で臨むこと。						
事前学習・事後学習とその時間	発達段階や心理および教育的支援の基礎知識、さまざまな精神疾患や発達障害についての基礎知識、基本的な面接技法、心理療法、心理検査について学んでおく。 事前学習の他、実習記録・報告書の作成や事後学習に4-5時間程度を要する。						
オフィスアワー	津川：月曜4限（研究室） 藤原：月曜4限（研究室） 宇都宮：水曜3限（研究室） 土居：月曜 2 限（研究室） 村上：木曜3限（研究室）						
授業計画						担当者	
1.実習・討議						1.全員	
2.実習・AL						2.全員	
3.実習・討議						3.全員	
4.実習・AL						4.全員	

5.実習・討議	5.全員
6.実習	6.全員
7.実習・討議	7.全員
8.実習・AL	8.全員
9.実習・討議	9.全員
10.実習	10.全員
11.実習・討議	11.全員
12.演習・AL	12.全員
13.実習・討議	13.全員
14.実習・AL	14.全員
15.実習・討議	15.全員

教科書

教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

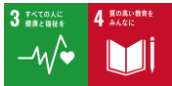
参考書

参・書籍名 1	特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン わかりやすい診断手順と支援の実際	参・出版社名 1	診断と治療社
参・著者名 1	特異的発達障害の臨床診断と治療指針作成に関する研究チーム 稲垣真澄（編）	参・ I S B N 1	978-4787817815
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	心理実践実習Ⅴ			担当者	津川 秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原 直子、土居 正人、村上 勝典、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前2年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	90	授業形態	実習・講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	地域において心理支援にかかわる心理師の役割、心理支援の実践について実習を通して体験的に理解する。 地域における心理支援の現場に見学や実習を通して参加し、公認心理師および臨床心理士に必要な知識・技能を修得することを到達目標とする。						
授業概要	学内心理相談室ならびに地域の機関において、心理支援の基礎を体験的に学ぶ。 具体的には、以下の内容を行う。 1. 心理相談室の運営会議、事例検討会への参加 2. 心理相談室において心理相談員が行う面接への参加（主に担当、心理検査） 3. 地域の小学校における心理検査ならびに支援 4. 実習担当教員が実施または指導する公的機関における心理発達相談、心理検査、学校における巡回相談・コンサルテーション・心理教育、高齢者支援等への参加 なお、実習は、①事前指導、②実習、③実習の報告・事後指導の3つの要素から構成される。 実習日はオリエンテーションにおいて年間予定を提示する他、機関の依頼により随時提示する。実習日以外に、事前指導および事後指導（カンファレンス）を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	単位認定は、事前指導への取り組み（20％）、学外実習への取り組み（50％）、実習報告（30％）を総合して評価する。 実習については、実習簿に記録し、実習担当教員の指導受けたうえで捺印を得ることが必要である。 修了までに、定められた回数あるいは時間の実習を行う必要がある。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習報告や課題のフィードバックは授業時間内に行う。						
履修条件・注意事項	地域における心理支援への参加については、事前事後指導も含め、遅刻・欠席することなく参加できることを条件とする。 関与できる実習に積極的に参加すること。 社会人としての基本的な礼儀・礼節を重んじることはもちろん、心理支援の場であることを十二分に認識し、真摯かつ謙虚な態度で臨むこと。						
事前学習・事後学習とその時間	発達段階や心理および教育的支援の基礎知識、さまざまな精神疾患や発達障害についての基礎知識、基本的な面接技法、心理療法、心理検査について学んでおく。 事前学習の他、実習・陪席報告書の作成や事後学習に4-5時間程度を要する。						
オフィスアワー	津川：月曜4限（研究室） 藤原：月曜4限（研究室） 宇都宮：水曜3限（研究室） 土居：月曜2限（研究室） 村上：木曜3限（研究室）						
授業計画						担当者	
1.討議						1.全員	
2.実習・討議						2.全員	
3.実習・討議						3.全員	
4.実習・討議						4.全員	
5.実習・討議						5.全員	

6.実習	6.全員
7.実習・討議	7.全員
8.実習	8.全員
9.実習・討議	9.全員
10.実習	10.全員
11.実習・討議	11.全員
12.発表・討議	12.全員
13.実習・討議	13.全員
14.発表・討議	14.全員
15.実習・討議	15.全員

教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン わかりやすい診断手順と支援の実際	参・出版社名 1	診断と治療社
参・著者名 1	特異的発達障害の臨床診断と治療指針作成に関する研究チーム 稲垣真澄（編）	参・ I S B N 1	978-4787817815
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	実験心理学特論			担当者	橋本 翠、三宅 俊治、森井 康幸、栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：心的活動を客観的に捉える実験的方法を修得することができる。 到達目標：実験計画(変数の設定, 条件操作の方法等)の立て方, および実験器具の操作法について, これまでの先行研究を概観し議論しながら自身で遂行できるようになる。						
授業概要	ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験の手法を学ぶために, これまでの先行研究を概観し, 基礎から応用までの幅広く心理学実験の概要を理解する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	レポート(70%), 受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポート（再提出も含む）を全て提出しなければ, その期の単位は認定不可とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポートに不備がある場合は返却し, フィードバックを行う。そして再提出をすること。						
履修条件・注意事項	無断で欠席をした場合は, 当該課題は不可となることがあるので十分気を付けること。病気などで欠席をする際は, 欠席願・診断書等を必ず提出すること。						
事前学習・事後学習とその時間	各課題の内容をしっかりと把握する意味でも予習・復習・レポート作成（合計4時間以上）をしっかりと行うこと。						
オフィスアワー	各実験担当の教員に聞くこと。 橋本：月曜5限：研究室						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション 2.視覚認知をどのようにとらえるか 3.視覚認知の基礎過程 4.パターン認知の諸問題 5.対象の視覚表現 6.シーンの認知 7.他の認知過程との関連 8.意味記憶 9.文章理解 10.画像記憶 11.日常生活の中の記憶 12.注意と情報処理 13.大脳半球機能差と認知 14.イメージの精神生理学 15.まとめ 16.単位認定試験						1-4回：橋本 5-8回：栗田 9-12回：森井 13-15回：三宅 16回：橋本	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	認知心理学重要研究集1				参・出版社名1	誠心書房	

参・著者名 1	齋藤勇 監修・行場次郎 編	参・ I S B N 1	4-414-32393-2
参・書籍名 2	認知心理学重要研究集2	参・出版社名2	誠心書房
参・著者名2	齋藤勇 監修・箱田裕司 編	参・ I S B N 2	4-414-32394-0

授業科目名	認知心理学特論			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／ 4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	【テーマ】 人間が環境に適応するための認知情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について理解する。 【到達目標】 認知心理学領域における最新の研究テーマを概観しながら、情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について修得する。						
授業概要	本講では、認知心理学領域で扱われている最新のテーマを概観しながら、他心理学領域との関連性についても言及するとともに、人間の認知機能が日常生活のなかで、どのように働いているのかという日常認知の問題についても考える。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	学修態度（減点法）、ディスカッションへの参加度(minutes paper含む)40％、反転授業の得点60％の合計点により総合的に評価する。 なお、欠席については総合点より回数分減点します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や質問等については授業開始前に返却しフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	修士課程の講義に値する積極的な取組みを期待する。発表担当者は、レジュメを作成し発表に臨むこと。半期の講義内で当該領域の興味がある内容についての実験を1つ行う。 遅刻は禁じます。						
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回、次の講義内容について指示をするので、関連書籍を読み、各回の内容について学習すること。復習については、授業時に配布する資料を読み、関連書籍と併せて内容を理解し、身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
(1)OR/認知心理学とは-誕生 (2) 認知心理学-変貌 (3) 知覚の基礎-知覚の世界 (4) 知覚の基礎-ミッドレベル・ビジョン (5) 高次の知覚と注意-2次元の認知 (6) 高次の知覚と注意-3次元の認知 (7) 表象-アナログ表象 (8) 表象-スキーマ (9) 記憶-記憶の基礎 (10) 記憶-記憶研究の新展開 (11) 言語-言語体系の機能と構造 (12) 言語-脳と言語処理 (13) 問題解決と推論-問題解決 (14) 問題解決と推論-推論 (15) 問題解決と推論-思考 (16) 単位認定ディスカッション						橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本	
教科書							
教・書籍名1	認知心理学 知のアーキテクチャを探る				教・出版社名1	有斐閣アルマ	
教・著者名1	道又・北崎・大久保・今井・山川・黒沢(著)				教・I S B N 1	4-641-12167-2	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	学習心理学特論			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の基本的メカニズムの検討 到達目標：「行動」は「こころ」の働きをも含む人間活動の土台であり、行動についての知識は、様々な人間の活動を包括的に理解するためには必要欠くべからざるものという観点から、行動を統一的に理解するための基礎知識と、レスポナント行動とオペラント行動という2種類の行動についての理解を深め、人間行動をこれらの基本的メカニズムでどこまで説明できるか考えられるようになることを到達目標とする。						
授業概要	人間の行動理解の前提となる「身体」、「こころ」、「行動」、「環境」などに関する基礎的な知識を基盤として、レスポナント条件づけとオペラント条件づけについて詳細にみていく。 適宜、形成的評価のための小テストを行う。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）、発表・レポート（50％）、小テスト（10％）で評価する。 発表内容、小テストについては、そのつどフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内での発表についてはその都度、質疑等の中でフィードバックを与える。 小テスト等については、次回の授業時に返却・解説する。						
履修条件・注意事項	評価は厳格に行うので、履修に当たってはそれなりの覚悟が必要である。						
事前学習・事後学習とその時間	予習：テキスト該当箇所は当然として、参考書籍も読んでおくこと。（2時間以上） 復習：参考書籍を中心に理解を深めるとともに、日常の具体例を考えること。（2時間以上）						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。						
授業計画						担当者	
講義 1. オリエンテーション 2. 学習と行動に関する基礎知識（こころ、身体、行動） 3. 学習と行動に関する基礎知識（行動と環境） 4. レスポナント条件づけの基礎 5. レスポナント条件づけの諸現象 6. レスポナント条件づけの新しい考え方 7. オペラント条件づけの基礎 8. 行動の獲得と消去 9. 強化スケジュール 10. 逃避行動と回避行動 11. オペラント条件づけにおける刺激性制御 12. 言語行動 13. 選択行動 14. 迷信行動 15. 社会的行動・まとめAL						森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書							
教・書籍名1	行動の基礎 豊かな人間理解のために 改訂版				教・出版社名1	培風館	
教・著者名1	小野 浩一				教・ISBN1	978-4563052478	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名 1	メイザーの学習と行動 日本語版第3版	参・出版社名 1	二瓶社
参・著者名 1	ジェームズ・E. メイザー	参・ I S B N 1	978-4861080456
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	心理統計法特論			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任 						
到達目標	【テーマ】心理学研究に欠かせない様々な統計的手法をプログラミング言語であるRを用いて実施する。 【到達目標】心理学研究に必要な種々の統計的分析がRを用いて使えるようになる。						
授業概要	【概要】心理学研究に必要な統計的分析をRを用いて実施できるよう、実際にPCを使いながら学修する。実際に研究で使用しているデータをRを使って分析しながら学んでいく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	毎回の講義の課題(50%), 受講態度(10%), レポート試験(40%)とする。欠席については減点方式をとる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は、各講義内で実施する課題を行い提出する。課題についてのフィードバックは、講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	大学院博士(前期)課程の科目であり、プログラム言語を用いて実施する応用となるため、学部の心理統計の知識は修得できていることを履修条件とする。この科目では心理統計に関する基礎的な講義は行わないので注意すること。 この科目ではプログラム言語Rを用いるため、基本的なプログラム言語は理解できていること。講義ではPCを用いるので必ずPCを持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習は次の講義内容についてテキストをしっかりと熟読し(2時間)、復習は講義でやった内容について各自でPCを動かして再度やってみること(2時間)。						
オフィスアワー	月曜5コマ(橋本研究室)						
授業計画						担当者	
1.OR 2.Rと統計学 3.1つの変数の記述統計 4.2つの変数の記述統計 5.母集団と標本 6.統計的仮設検定 7.2つの平均値を比較する 8.分散分析 9.データフレーム 10.外れ値が相関係数に及ぼす影響 11.統計解析でわかること・わからないこと 12.プリ・ポストデザインデータの分析 14.人工データの発生 15.検定の多重性と第1種の誤りの確率 16.レポート試験						橋本翠(第1回～第16回)	
教科書							
教・書籍名1	Rによるやさしい統計学				教・出版社名1	オーム社/開発局	
教・著者名1	山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎				教・I S B N 1	978-4-274-06710-5	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	感情心理学特論			担当者	村上 勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／ 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	感情の生理的基盤および古典的理論、感情が行動と認知に及ぼす影響、感情障害とその支援について理解できることをテーマとする。 感情の理論および感情障害とその支援を説明できることを到達目標とする。						
授業概要	情動末梢起源説、二要因説などの古典的理論や現代の理論についてのレジュメ作成、感情が行動に及ぼす影響や感情障害とその支援についてのレジュメを作成し、その発表や演習をおこなう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内の発表に対する取り組み（50％）と試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックをおこなう。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 担当箇所のレポートを毎回欠かさず提出し、それを発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						村上	
2. 感情の生起の概要						村上	
3. 感情の生起に関する理論						村上	
4. 基本的感情説						村上	
5. 次元説						村上	
6. 感情と脳の仕組み						村上	
7. 感情と行動						村上	
8. 感情と認知						村上	
9. 感情障害の概要						村上	
10. うつ病						村上	
11. アレキシサイミア						村上	
12. 自閉スペクトラム						村上	
13. 感情障害に関する心理学的理論						村上	
14. 感情障害に対する支援						村上	
15. まとめ						村上	
16. 定期試験						村上	
教科書							
教・書籍名 1	感情とはそもそも何なのかー現代科学で読み解く感情のしくみと障害ー				教・出版社名 1	ミネルヴァ書房	
教・著者名 1	乾敏郎				教・I S B N 1	978-4-623-08372-5	
教・書籍名 2					教・出版社名 2		
教・著者名 2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名 1					参・出版社名 1		
参・著者名 1					参・I S B N 1		
参・書籍名 2					参・出版社名 2		
参・著者名 2					参・I S B N 2		

授業科目名	生理心理学特論			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	【テーマ】 人間が環境に適応するための「こころ」を理解する。 【到達目標】 認知生理心理学領域の最新のテーマを概観しながら、「こころ」を理解しようとするさまざまな研究アプローチを修得する。						
授業概要	本講では、認知生理心理学領域で扱われている最新のテーマを概観しながら、他心理学領域との関連性についても言及するとともに、人間の認知機能が日常生活のなかで、どのように働いているのかという日常認知の問題についても考える。						
アクティブラーニングの内容	反転授業						
評価方法と割合	学修態度（減点法）、ディスカッションへの参加度(minutes paper含む)40%、反転授業の得点60%の合計点により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や質問等についてのフィードバックは、講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	修士課程の学修に相応しい積極的な取組みを期待する。発表担当者は、毎回レジュメを作成し発表してもらう。また、半期の講義内で興味のある生理心理学の実験を最低1つは行ってもらう。						
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回、次の講義内容について指示をするので、関連書籍を読み、各回の内容について2時間学習すること。復習については、授業時に配布する資料を読み、関連書籍と併せて内容を理解し、身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げることにつき2時間行うこと。minutes paperについては授業開始前に返却しフィードバックを行う。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
(1)OR/生理心理学の歴史						橋本	
(2) 脳科学としての生理心理学研究法						橋本	
(3) 脳への操作による心理・行動研究						橋本	
(4) 脳の直接的操作						橋本	
(5) 脳の行動の遺伝子操作						橋本	
(6) 動物を用いた脳の組織学的研究法						橋本	
(7) 中枢活動Ⅰ：脳波						橋本	
(8) 中枢活動Ⅱ：脳イメージングの技法						橋本	
(9) 心臓循環器系						橋本	
(10) 呼吸活動						橋本	
(11) 温熱系						橋本	
(12) 視覚－運動系						橋本	
(13) 骨格筋系						橋本	
(14) 生化学的指標						橋本	
(15) まとめ						橋本	
(16) レポート試験						橋本	
教科書							
教・書籍名1	生理心理学と精神生理学 第Ⅰ巻 基礎				教・出版社名1	北大路書房	
教・著者名1	堀忠雄・尾崎久記(監修) 坂田省吾・山田富美雄(編)				教・I S B N 1	978-4-7628-2972-7	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	社会心理学特論			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜4限
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	社会心理学は、人間と社会の相互作用を通じて、双方に様々な影響を与える「社会的行動」を研究対象とし、その基底に存在する法則性を解明することを目的としている。本論の受講により、心理過程を客観的に捉えるための方法論(観察・実験・調査等)に基づいて、当該分野で新たな所見と解釈を論理的な文章で記述し、心理学界の研究の発展に斬新な視点を導入するとともに、人間の「社会的行動」を科学的に理解する様々な研究アプローチについて学び、人の心と社会との関係をダイナミックに理解することができる。						
授業概要	本特論では、社会の変遷とともに「社会的行動」の法則性がどのように理解されてきたのか、史的レビューを行うとともに、それらの知見が今日の現実の社会問題の解決や人々の幸福達成にいかに関与しているのかについて論じる。また、特定の条件の下で示される意識や行動の客観的な記述・測定・分析を通じて、心理学的な理論の検証を推し進めていくための高度な方法論を修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	事前学習と発表課題へ取り組む態度(50%)、発表後のまとめとレポート(50%)とし、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表後のまとめとレポートについては、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	毎回文献通読課題を出すので、次回までに熟読し、内容の紹介と考察ができるよう準備しておくこと。なお、授業に使用する必須資料は配付するが、指定した参考書も授業の中で適宜使用するので持参すること。						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、当該授業内容の確認・理解のために授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
1. 社会心理学の成立 2. 社会心理学の成立と展開 3. 社会心理学研究における基本概念(個人) 4. 社会心理学研究における基本概念(集団) 5. 社会心理学における重要研究レビュー(基礎) 6. 社会心理学における重要研究レビュー(個人) 7. 社会心理学における重要研究レビュー(集団) 8. 社会心理学における重要研究レビュー(応用) 9. 社会心理学の今日的テーマと研究アプローチ(個人) 10. 社会心理学の今日的テーマと研究アプローチ(集団) 11. 社会心理学の今日的テーマと基礎的研究アプローチ 12. 社会心理学の今日的テーマと応用的研究アプローチ 13. 社会心理学研究における学際的アプローチ(社会学) 14. 社会心理学研究における学際的アプローチ(文化人類学) 15. 社会心理学研究の課題						栗田喜勝	
教科書							
教・書籍名1	初回講義時に授業用資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名 1	社会心理学研究案内	参・出版社名 1	ナカニシヤ出版
参・著者名 1	三井宏隆他	参・ I S B N 1	4-88848-702-2
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	健康心理学特論			担当者	村上 勝典		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	健康関連行動に関する理論モデルおよびストレスに関連するモデルやアセスメント、支援方法を理解できることが、この授業のテーマである。 到達目標は、健康関連行動およびストレスについての基礎的な内容を理解し、セルフマネジメントや支援に活かすことができるようになることである。						
授業概要	健康やストレスに関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや支援方法などについてのレジュメを作成し、その発表や演習をおこなう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内の発表に対する取り組みや定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、発表に対する取り組み（50%）と試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックをおこなう。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 担当箇所のレポートを毎回欠かさず提出し、それを発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						村上	
2. 健康心理学とは						村上	
3. 健康心理学の研究法						村上	
4. 健康関連行動とは						村上	
5. 健康関連行動のモデル（1）：健康信念モデル						村上	
6. 健康関連行動のモデル（2）：計画的行動理論						村上	
7. 健康とパーソナリティ						村上	
8. ストレスとは						村上	
9. ストレスのモデル						村上	
10. ストレッサーの測定						村上	
11. ストレス症状の測定						村上	
12. ストレスコーピング						村上	
13. ストレスコーピングの測定						村上	
14. ソーシャルサポートとは						村上	
15. ソーシャルサポートと健康						村上	
16. 定期試験						村上	
教科書							
教・書籍名1	保健と健康の心理学			教・出版社名1	ナカニシヤ出版		
教・著者名1	大竹恵子（編）			教・I S B N 1	978-4-7795-1112-7		
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・I S B N 2			
参考書							
参・書籍名1				参・出版社名1			
参・著者名1				参・I S B N 1			
参・書籍名2				参・出版社名2			

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	老人心理学特論			担当者	村上 勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／ 4. 質の高い教育をみんなに／ 11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	日本は超高齢社会であり、平均寿命も世界トップクラスである。それゆえ、健康やサクセスフルエイジングは高齢期における課題の1つである。また、加齢に伴い、認知症の有病率も高くなることから、認知症の予防も関心事の1つとなり得る。本講義のテーマは、これらの問題に対する心理学的な知識やアプローチを知ることである。 到達目標は、高齢者の生活の質を高めるために、高齢期に関する心理学的な知識を習得することである。						
授業概要	高齢期に関連する心理学的な知見、老年心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについてのレジュメを作成し、その発表や演習をおこなう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内の発表に対する取り組みや定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、発表に対する取り組み（50%）と試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックをおこなう。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 担当箇所のレポートを毎回欠かさず提出し、それを発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						村上	
2. 高齢者の特徴						村上	
3. 高齢者の身体活動と健康						村上	
4. 高齢者の身体活動に対する心理的支援						村上	
5. 高齢者の食生活と健康						村上	
6. 高齢者の食生活に対する心理的支援						村上	
7. サクセスフルエイジング（1）：医学的な考え方						村上	
8. サクセスフルエイジング（2）：心理学的な考え方						村上	
9. 高齢者の閉じこもり						村上	
10. 高齢者のうつ病						村上	
11. 認知症とは						村上	
12. 軽度認知障害とは						村上	
13. 認知症のアセスメント						村上	
14. 認知症に対する心理的支援						村上	
15. 認知症の予防						村上	
16. 定期試験						村上	
教科書							
教・書籍名1	超高齢社会を生きる一老いに寄り添う心理学				教・出版社名1	誠信書房	
教・著者名1	長田久雄・箱田裕司（編）				教・I S B N 1	978-4-414-31118-1	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	生涯発達心理学特論			担当者	三宅 俊治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	生涯発達過程における人格の向上・成長志向性について、「中年期」の意味を検討するのがテーマである。文献的理解とデータに関する考察を重点的に行う。それぞれ6割の水準以上、達成することを到達目的とする。						
授業概要	生涯発達過程における人格の向上・成長志向性について検討する。発達段階や世代性に関して「中年期」の意味は、如何なるものであるのか。理論やそれを実証するためのデータあるいは文献を吟味し、生涯にわたる人間的成長とは何か、を考察する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験(60%)、課題やレポート(40%)。提出されたレポート課題に対するコメント、フィード・バックは提出時、もしくは翌週、行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出した後、次回の授業で解説を行う。						
履修条件・注意事項	授業参加者は、割り当てられた担当部分をレポートし、説明する。テキストに記されている事項以外の関連領域の所見を積極的に紹介し、主体的に授業にかかわる義務を負う。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること。						
オフィスアワー	日時：毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。						
授業計画						担当者	
1. orientation 2. 生涯発達論 3. Erikson,E.H. について 4. 中年期の発達課題 5. 中年期成人と世代性 6. Jung,C.G. と個性化 7. Levinson,D.J. とライフサイクルの心理学 8. McAdams,D.P. と世代性 9. 成人の発達モデルと中年期 10. ライフイベント論と中年期 11. 精神分析、精神医学と世代性 12. 世代性の発達と自己概念 13. 世代性尺度について 14. 世代性行動チェックリストについて 15. 世代性研究の課題 16. 定期試験						1. 三宅俊治 2. 三宅俊治 3. 三宅俊治 4. 三宅俊治 5. 三宅俊治 6. 三宅俊治 7. 三宅俊治 8. 三宅俊治 9. 三宅俊治 10. 三宅俊治 11. 三宅俊治 12. 三宅俊治 13. 三宅俊治 14. 三宅俊治 15. 三宅俊治 16. 三宅俊治	
教科書							
教・書籍名1	成人の心理学 – 世代性と人格的成熟 –				教・出版社名1	ナカニシヤ出版	
教・著者名1	丸島 令子				教・I S B N 1	ISBN978-4-7795-0400-6	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	人格心理学特論			担当者	土居 正人		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	【テーマ】性格（人格）心理学の研究上の疑問から研究課題を見つけ出すこと。 【到達目標】パーソナリティ研究の論文を輪読し、まだ明らかになっていない研究課題が見出せるようになる。研究を行うのに必要な手続き、知識、技能、論理思考力、表現力等を学び、研究論文としてまとめることのできる力を身につけることができる。						
授業概要	本講義では、論文におけるレジュメの作成と発表を通して、様々な観点（臨床心理学的側面、文化的側面、発達の側面など）から「性格（人格）」を捉え、現在どのようなことがわかっているのか、いないのか学修する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	レポート試験(50%)および講義中の質疑応答、受講態度や各授業における課題(50%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は毎回、テーマに沿って論文要約を作成し、発表することである。それに加えて、調査データの打ち込み練習、分析練習等の課題がある。フィードバックは、論文要約、分析課題に対して行う。						
履修条件・注意事項	論文要約は毎回あるので、すぐに論文要約ができる準備をしておくこと。論文の検索方法及び取り寄せ方、要約の仕方、引用の方法を調べてくること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習として、論文要約をしてくること。講義後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。						
オフィスアワー	月曜日の2時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. パーソナリティ（人格）とは 3. 類型論について 4. 特性論について 5. パーソナリティの尺度化 6. 尺度構成法：信頼性 7. 尺度構成法：基準関連妥当性 8. 尺度構成法：構成概念妥当性 9. 境界性パーソナリティー障害 10. 強迫性パーソナリティー障害 11. 感情調節障害 12. 人格検査（歴史） 13. 人格検査（実施） 14. 人格検査（分析） 15. 人格検査（解釈） 認定レポート						土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居 土居	
教科書							
教・書籍名 1	必要に応じてプリント配布、板書を行う。				教・出版社名 1		
教・著者名 1					教・I S B N 1		
教・書籍名 2					教・出版社名 2		
教・著者名 2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名 1	心理学 新版				参・出版社名 1	有斐閣	
参・著者名 1	無藤隆、森敏昭				参・I S B N 1	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861	

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	異常心理学特論			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜5限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	【テーマ】 非行・犯罪行動といった正常から著しく異なる行動の背景にある心理的な状態や環境要因、異常な状態と関連する精神障害について学習する。また、非行・犯罪に関する法規やさまざまな社会的問題、科学的捜査や心理的支援についても学び、理解を深める。 【到達目標】 ①非行・犯罪といった異常な行動の心理状態に関する基礎的な知識や法規を習得する。 ②人格障害や行動障害の概念・特徴・病理・診断・処遇について理解する。 ③矯正施設や科学捜査研究所等の心理職について、職務内容や基礎的な知識を理解する。						
授業概要	犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基礎知識、司法・犯罪分野に関する法規や科学的捜査について、テキスト・文献を用いて学び、事例に関する演習やディスカッションも行う。 さらに、司法・犯罪分野における心理に関する職務の実際を学ぶため、少年院法務技官や科学捜査研究所（科捜研）研究員の講義聴講も行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み、演習・発表（提出）課題、最終試験を総合的に評価する。 到達目標①～③を全て評価し、理解度やプレゼン内容・参加意欲・態度により評価する。 評価の割合は、おおむね、授業への参加態度20%、演習・発表課題50%、最終試験30%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	演習・発表について、その都度フィードバックする。						
履修条件・注意事項	発表の担当者は、スライド、レジュメ、資料等を準備し、授業開始時間までに印刷して配布すること。 正規の授業時間以外に、外部機関における演習やそれに伴うカンファレンス等を行うことがあるが、必ず出席すること。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習として、担当教員が指示するテキストや参考書籍を事前に読んでおくこと。 犯罪心理学や事件に関連する学術論文や専門雑誌、ニュース記事の検索・熟読、演習でのプレゼンテーションの練習を各自行うこと。 予習・復習とも毎回2時間以上は行う。自身の発表前には、文献検索・読解、資料作成、プレゼン練習等に数時間～数日を要するので、日頃から用意しておくことよい。						
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日5限（研究室）						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 異常行動と心理 3. 非行・犯罪のタイプと背景 4. 非行・犯罪に関連する法規 5. 非行・犯罪に関する施設や職務：裁判所、鑑別所など 6. 非行・犯罪に関する施設や職務：少年院、刑務所、保護施設など 7. 異常行動と関連する精神障害 8. 精神障害の特徴・処遇 9. 非行・犯罪に関する施設や職務：警察など 10. 科学捜査に生かす心理学 11. 科学捜査研究所における心理職の役割（外部講師） 12. 異常行動と関連する人格障害 13. 人格障害の特徴・処遇 14. 異常行動と関連する行動障害						全回：藤原直子 第11回：外部講師（岡山県警察本部科学捜査研究所）	

15. 行動障害の特徴・処遇	
16. まとめ、試験	

教科書

教・書籍名 1	各回の内容に応じて、随時指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	高次脳機能特論 集中B			担当者	田尻 直輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士前1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	学位授与方針(1)に関連し、教育過程の編成・実施方針に記載されている医学関連科目である。高次脳機能という言葉に厳密な定義はないが、大脳皮質における各種感覚情報の認知・感情の発現、思考・判断を経て運動（行動）に至る過程がそれに当たると考えられている。その基礎に意識、記憶、知能などがあるが、これらの過程が障害されてしまうと、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの高次脳機能障害が出現し、日常生活や社会生活が制限されてしまう。この講義では、脳・神経系の解剖学と生理学を基盤とし、脳神経の仕組みや機能、その障害について解説を行っていく。到達目標は、脳・神経系機能の包括的な理解と応用である。その中で研究方法論の習得も目指す。						
授業概要	臨床・研究・教育現場で、約17年以上、解剖生理学、脳神経科学、高次脳機能障害学、リハビリテーション科学に特化した実務経験を持っている。その経験をもとに、精力的に学生指導に当たる。脳とところは、非常に密接な関係があり、そこから付随する疾患は多岐にわたる。こころの理解を深めていくためには、まず脳の構造や機能を十分に理解する必要がある。まずはじめに、脳・神経系の解剖学と生理学の概略を説明する。その後、大脳皮質の機能を中心とした講義を行い、その上で種々の高次脳機能及びその障害を必要に応じて最新の論文をもとに検討する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	成績評価は、講義毎に行う口頭試問による理解度、論文抄読の内容やレポート課題による試験と受講態度を総合して行う。本講義では、参加型学習を主体としているため、積極的な発言や応答を求める。評価方法については、討論への参加状況や応答及び対話における理解度などを参考にする。また課題や論文に対する知識力・理解力・考察力も重視するので、そのつもりで講義に臨むこと。詳細な評価方法は、最初のオリエンテーション時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	電子メールにて、やりとりを行う。						
履修条件・注意事項	必要プリントは、あらかじめ講義毎に予習・復習ができるように配布する。本講義では、脳・神経系の解剖学と生理学の基礎知識が必要である。まずはじめに、高次脳機能を理解するために必要な解剖学と生理学の基本的な概略を説明する。専門用語などが数多く出てくるので、講義期間内でしっかりと自己学修をし、不明な点があれば、随時積極的に質問してほしい。						
事前学習・事後学習とその時間	上記に記載した履修条件・注意事項を参考にすること。講義で配布したプリントや参考書を参考にして、必ず予習・復習をしておくこと。予習・復習には各2時間程度を要する。 また、教科書は使用しない（講義毎にプリントを配布する）。配布資料の中で、参考になっている教科書を下記に記載しておく。						
オフィスアワー	講義の合間・終了後に実施する。 電子メールでも対応する。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション講義						田尻	
2. 脳・神経の仕組み（概略Ⅰ）						田尻	
3. 脳・神経の仕組み（概略Ⅱ）						田尻	
4. 脳・神経の仕組み（概略Ⅲ）						田尻	
5. 運動制御（Ⅰ）						田尻	
6. 運動制御（Ⅱ）						田尻	
7. 運動制御（Ⅲ）						田尻	
8. 高次脳機能総論						田尻	
9. 意識とその障害						田尻	
10. 記憶とその障害						田尻	
11. 知能とその障害						田尻	

12. 言語とその障害	田尻
13. 失読と失書・失行と失認	田尻
14. 高次脳機能障害の生活実態	田尻
15. 高次脳機能障害の生活支援	田尻
16. 単位認定試験（課題試験）	田尻

教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	神経科学－脳の探求－	参・出版社名 1	西村書店
参・著者名 1	加藤宏司	参・ I S B N 1	978-4-89013-356-7
参・書籍名 2	全部見える　スーパービジュアル　脳・神経疾患	参・出版社名2	成美堂出版
参・著者名2	服部光男	参・ I S B N 2	978-4-415-31849-3